

ギデ さ、こつちへおいでなさい。

ア一 梟が夜を、雲雀が朝を歓迎する以上に歓迎しますよ。

イモ ありがたう。

ア一 ねえ、こつちへおいでなさい。

はひ
入る。

第七場 羅馬 公街

二人の元老官と數人の保民官出る。

元一

これが帝の御急便の趣旨です。平民連は目下バノニヤ人やダルマシヤ人を征討するために進發中であるので手が足らず、現にゴリリヤにゐる聯隊の如きは、ブリテインの叛逆軍へ差向けるものとしては到底劣勢であること

いふので、至急に貴族たちを説いて従軍させるやうにといふ御命令です。

帝はルーシヤスを總督にお任せあつて、君がた保民官には、右の新徴軍に關する一切の全權を委任なさるのです。……シーザー萬歳！

保一 ルーシヤスが總大將ですか？

元二 さやう。

保一 目下ゴリリヤに滞在中ですか？

元一 今お話した聯隊を率ゐてをられるのです。君がたの新徴軍は其援兵なのです。兵員の數や出發の時機は御委任狀通りにお計らひなさい。

保一 たしかに承はりました。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

第四幕

第一場 ウエールズ ベラリヤスの窟の附近

クローテン 旅装して、ボスチューマスの上被を着て出る。

クロ

もう此邊があいつらの出逢ふ場所だ、ビザニオめのいつたことが眞實なら。……あいつの上被がそつくりそのまゝ、都合よくおれの役に立つ。どうしてあいつの妻だけがおれの役に立たんか？ 上被は裁縫師が製つたんだが、彼女は其裁縫師を造つた神さまが造つたんだ、それなのに？ かう申しちや濟みませんが、「女の都合は其日々々」といふ諺さへあるんだの

になア。……こゝは一番、お手細工と出かけなきやならんわい。敢て自問自答するが……何故なら、自分の部屋で鏡と問答するといふのは必ずしも自惚ぢやないんだから……といふのは、おれの面附なり體附なりは決してあいつらに劣りやアしない、同じに若くもあり、腕力は一倍強いし、財産も下ぢやなし、境遇や血統は上だし、軍事と來たら、何でもあいつにや負けやしないし、それから一騎打は最も得意だ。それなのに、あのわからずやは俺を袖にして、あいつを可愛がりやアがる。人間は變なものだなア！ やい、ボスチューマス、今汝の肩に乗つかつてゐる其首は、もうすぐ顛落ちるぞ。汝の妻は強淫されるぞ。汝の上被は目の前で八裂にされるぞ。さうしてそれがみんな濟むと、彼女を蹴飛ばししくして、親父の處へ連れて歸るんだ。親父は、或は怒るかも知れん、手荒すぎたといつて。けれどもお袋が傍で圓めツちまふから、萬事上首尾といふことにならア。…馬

は繁いで来たから大丈夫だ。……さ、劍よ、出る。すごい仕事をしろ！
 運命よ、どうか二人に運り逢はせてくれ！……どうやらこゝが、奴らの出逢ふ場所らしいぞ。よもや、あの野郎め、おれを騙し得やしまい。
 入る。

第二場 ベラリヤスの窟の前

窟からベラリヤス、ゲルデリヤス、アーゴレーガス、イモーゼン出る。イモーゼンは病氣の體である。

ベラ (イモーゼンに) 氣分がわるさうだ。こゝに残つてゐなさい。獵がすめば、すぐ歸つて来るから。

アー (イモーゼンに) ねえ、待つといでよ。え、こちからは兄弟ぢやないか？

イモ (力なげに) 男どうしなら兄弟でせう。けれども土塊どうしにも位階の差があつて、塵になつちまはないうちは同じにはなれない。……わたし大變に加減がわるいの。

ギデ (父と弟とに) あなたゝちは獵においでなさいよ。僕が残つてゝ介抱しますから。

イモ (氣の毒げに) 大してわるくはないのですが、只その、氣持がよくないのです。けれども、病氣が酷くもならないのに、死にさうな顔をするほど、それほどわたし懦弱な都會人でもありません。ですから、出かけて下さい。日課をお變へにならないがいゝ。習慣の破壊は百事の破壊ですから。わたしは病氣です、けれどもあなたが傍にゐてくださつたからツて、治りやしない。交際は慰めだといふけれど、交際嫌ひな者には何にもならない。

ねえ、こんなに物がいへるくらゐです、だからさうわるくはないのです。一人ツきりおいてつても大丈夫です、何にも盗みやしません。爲方がなかつたら死にます、たかゞ自分の命を盗んで。

ギデ (イモーセンに) 僕は君を愛してるんだ。ね、さういつたらう、僕が親父を愛してるのは果してどのくらゐだか分らんが、ちやうど其くらゐ愛してるつて。

ペラ (聞き答めて) え？ 何だと！ 何だと！

アー さういつちや罪悪かも知れんけれど、お父さん、僕も兄さんと同罪人になるよ。なぜだか、僕も此人が好きだ。ねえ、(ペラリヤスに) あなたがさういつたでせう、理由がないつて事が愛の理由だつて。棺車が戸口へ来て、さア誰れを載せてくんだと聞きやア、僕はいふね「此人をちやアない、お父さんをだ」と。

ペラ (傍) 遺傳は争はれないものだ！ 自然に徳が備はつてゐる。あゝ、英邁な

君主の血統！ 臆病者の子は臆病だ、卑劣者の父は卑劣だ。自然は穀粉をも糠をも、下等な物をも上等な物をも製る。おれの子でない證據だ。…が、不思議にも俺以上に可愛がられる彼者は一體何者だらう？ …… (兄弟にもう朝の九時だぞよ。

アー (イモーセンに) 同胞、さようなら。

イモ 獵のあるのを祈つてゐますよ。

アー 病氣の治るのを祈つてるよ。…ちや、お父さん。

イモ (傍) 深切な人達だ。今まで聞いてゐたことは大嘘だつた！ 朝廷にゐる者は朝廷以外の者をば、みんな野蠻人のやうにいふ。あゝ、寡聞の誤りを正すものは經驗だ！ 大海の魚は大概怪物だ。美味しい魚類はちツぼけな河で捕れる。…まだくるしい。胸が痛い。…ビザニオや、お前のくれ

た薬を飲みますよ。

小箱の薬を服む。

此間、ベラリヤスらはやゝ離れた處で何事か小聲で話してゐたが、此時また聲が高くなる。

ギデ

どうしてもくはしいことはいはなかつた。上流に生れたけれども不幸で、罪がなくツて罪を得ただけはいつてゐたがね。

アー

僕にもさういつた。けれども何れそのうちに話すといつたよ。

ベラ

さ、野山へ〜！ (イモーセンに) ちや、往つてくるからね、奥へ入つて休んでゐなさい。

アー

ぢきに歸つてくるから。

ベラ

弱り込んぢやいけませんぞ、臺所係りをして貰はねばならんから。

イモ

弱つても、弱らなくツても お世話になります。

ベラ

いや、いつまでだつて世話をしますよ……

イモーセン 窟の中へ入る。

アー

あの少年は今難儀してゐるが、もとは結構な身分の者であつたらしい。歌を歌はせると、まるで天人のやうだ！

ギデ

だが、料理が一等手際だよ！ 野菜の根を字の形に綺麗に刻んだり、旨い肉汁を鹽梅したりする、まるで天神妃の病氣中の食物でもこさへてるやうに。

アー

苦しくツて溜息をする時にだつて、耐へて笑ひ顔をしてゐる。溜息と笑

ひ顔とが競争の形だ。溜息は笑ひ顔に負けた爲に出たのらしく、また笑

ひ顔は、こんな貴い體から出た息だつても、つまりは船乗に怒鳴られる颯風の微要素になるのだなアと可笑しがつてゐるのらしい。

ギデ

つまり、泣きたい氣と辛抱氣とが、妙にこんがらがつて、あの胸中に横根

を張つてゐるんだらう。

アー あゝ、その辛抱氣よ、もつと延びろ！ さうして其、臭い接骨木のやうな泣
蟲根性は、其、段々延びる蔓から根を解き離して、枯ツちまへ！

ペラ (天を仰いで)もうすつかり朝だ。 さ、さ、往かう〜！……(一方を見て)おや、
だれか來た。

クローテン 出る。

クロ (獨語のやうに) どうしても駈落者が見つかからない。 あの野郎、だましやア
がつたな。 あゝ、息が切れる。

ペラ (聞き耳を立て) 駈落者ツ！ ~~こちとらの事~~こちとらの事ぢやアないかな？……あの男に
は幾らか見覚えがある。……妃の息子のクローテンだ。 捕手が伏せてあ
るかも知れんぞ。 長い間見なかつたが、たしかにあの男だ。 こちとらは
罪人扱ひにされる身に……逃げろ！



ギデ たつた一人ツきりだ。 お父
さんは弟と一しよに、此近邊
に連れがわやしないか檢べ
て下さい。 さ、早く。 僕は
獨りで奴と應對するから。

ペラリヤスとアーゼレー
ガスと急いで入る。

クロ (その後ろ姿を見て) おや！ 待
て！ そんなにして逃げる

汝らは何者だ？ 山賊か？
豫て汝らのやうな者がゐる
といふ噂を聞いてゐた。(ギデ

リヤスに) どういふ野郎だ汝は?

ギデ 「野郎」なんぞといはれて、殴り付けずに返辭をする兄さんぢやアないぞ。

クロ 汝は、きつと山賊だ、法律破りだ、悪黨だ。降参しろ、どろぼう!

ギデ だれに? お前にか? だれだお前は? おれの腕の大きさはお前のと

おんなじだぞ。勇氣だつてさうだぞ。たゞ口だけはお前のはうが強さ

うだ、おれは口の中へ劍を收れちやおかないからね。お前は何だ? な

ぜおれがお前に降参するんだ?

クロ 下司奴の悪黨め、此服を見ても解らんか?

ギデ わからん。お前のお祖父さんに當るらしい裁縫師も知らん。お前は其

お祖父さんが製つた、それ、其服のお庇で、やつと人間になつてゐるのらし

いが。

クロ 滅法界もないことをいやアがる! これはおれの裁縫師が製つたのぢや

ない。

ギデ ぢや、早く歸れ、さうして其服をくれた人に禮をいへ。汝は低能だな。

汝なんか殴つのは厭だ。

クロ このどろぼう野郎の無禮者めが! おれの名を聞いて慄えあがれ。

ギデ 名は何といふのだ?

クロ こん畜生! クローテンだ。

ギデ こん畜生クローテン! それを汝の名にしろ。が、ちつとも慄えない

ぞ、まだしも蝦蟇だとか、蝮だとか、毒蜘蛛だとか名宣りを上げりやア、幾

らか怖いとも思ふけれど。

クロ 汝を尙こはがらせて、目を舞はさせるためにいふが、おれは王妃の息子だ

ぞ。

ギデ (冷笑して) そりや氣の毒だ。あんまり安ッぼくて、さういふ身分とは見え

んや。

クロ (激して)こはがらんのか？

ギデ こはいいのは、おのづと頭の下る賢人だけだ。馬鹿者はをかしばかりだ。

こはかアない。

クロ (劍に手をかけて)うぬ、くたばりやアがれ。おれは今汝を殺して、さうして

逃げてつた奴らをも殺して、ラッツタウンの城門に汝らの首を掛け並べてくれる。降参しろ、山猿の下司奴め！

二人戦ひつゝ、入る。

暫くして別の方角からベラリヤスとアーゼレーガスが出る。

ベラ そこいらに連れらしい者はゐないか？

アー なんにもゐないよ。きつとお父さん、見ちがへたんだよ。

ベラ どうだかな？ もう久しいこと逢はなかつたのではあるが、昔のまゝの顔

の特徴が残つてゐる上に、早口に氣短かに、がみ／＼いふあの調子にも記
えがある。大丈夫、クローテンだ。

アー (あたりを見廻して)先刻のとはこゝだよ……あゝ、兄さんがうまくあいつ
をやツつけてればいゝがなア！ 大變に癡猛なやつだといつたねえ、お父
さん。

ベラ あの時分にや、あいつはまだ人間並になつてはゐなかつたんで、怖ろしい
てことを合點してゐなかつた。無分別だと怖いものがなくなるからな
う。……(一方を見て)あ、兄が歸つて來た。

ギデリヤス手にクローテンの首を提げて出る。

ギデ こいつア低能兒だつたよ。空財布だつた。中にや鏝一文も收ツちやア
ゐなかつた。ハーキュリーズにだつて此奴の脳味噌ばかりは叩き出しや
うがなかつたらう、てんで無いのだからね。だが、僕が斯うしなかつた

ベラ　ら、やつめが僕の頭を斯ういふ風にしツちまつたらうて。
(驚いて、目を見張つて) えッ、何をした? どうしたんだ?

ギデ

わかり切つてますよ。クローテンで奴の首を切つたんです。 當人にいはせると、王妃の息子です。 奴が僕を謀叛人だの、山賊だのといやアがつて、こちとら三人を一人で取ツちめて、其首を今乗ツかつてる處から叩きおとして、……まづお庇さまで無事だつたが……ラッヅタウンとかに掛けると怒鳴りやアがつたんです。

(大きに驚いて) ぢや、もうこちとらは駄目だ!

きつと其祟りが来ると歎息する。

ギデ

だつて、お父さん、こちとらにや、あいつが取らうといつた命以外にや、失くするものなんか何にもないぢやないか? 法律は頭でこちとらを保護してくれないとなりや、何も、圖々しい出来ぞこなひの人間なんかに威嚇

こちとらハ
奴を
泣かせ

されたり、裁判官や首斬役の眞似を兼任させたりして、おとなしくしてゐるにや及ばんぢやないか? 法律を怖がるから、こんな奴がいゝ氣になるんだ。……そこいらに連れがゐましたか?

ベラ

たゞの一人も目附からない。けれども屹度何人かの従者があるに相違ない。 氣まぐれな男で、而もわるい方へと氣の變る男ではあつたが、よしんば逆上したつても、まるツきり氣がちがへばツて、獨りぼつちで、こゝいらへとち迷つてくる筈はない。 もつとも、かやうくの追放人らしい者が此窟に住んでゐて獵をしてゐる、早晚何事かしさうだといふことが朝廷へ聞えたかも知れん。 で、あいつがそれを聞いて……ありさうなことだ……赫となつて、ヒツとらへてくると誓言したのかも知れん。 それにしても獨りぼつちで来るといふこと、來させるといふことが不審だ。 だから氣になるんだ。 あいつの體には、其首よりも危険な尻尾がありやしない

かな。

アー 神さまたちが豫定の上でなさる事なら、爲方がないや。とにかく兄さんは良い事をしたんだ。

ベラ おれはけふは獵に行きたくなかつた。あのフィデールが病氣であるのが氣になつて、ねつから足が掛らなんだ。

ギテ 僕の喉を目掛けて突きかけて來やアがつた、其劍をひつたくつて、あいつの首を叩き斬つてくれた。此窟の背後の谷河へ抛り込んでくれよう。

さうして海まで流れてゆかせて、魚どもに「おれア王妃の息子のクローテンド」と名宣らせてやらう。それ以上、こいつにやアおかまひなした。

ギテリヤス 入る。

ベラ 此仕返しをされさうだ。あゝ、ポリドーアよ、とんだことをしつちまつたなう！ 勇ましい働きではあつたけれど。

アー

僕がしたんだとよかつたになア！ さうだと、仕返しされるのも僕だけだらうから。……ポリドーア、僕は兄さんとして君を愛してるけれど、手柄を先へされつちまつたので悔しいや。……人間の力で相手になれる仕返しなら、いつでもやつて來るが、逃げ隠れなんかしやしないぞ。

ベラ

はて、すんぢまつたことだ。もうけふは獵をよさう。無益な冒険もよさう。窟へ歸らうよ。お前はフィデールと料理番をしな。おれはあの短氣者のポリドーアの戻つてくるのを俟つてゐて、すぐに食事に連れてゆくから。

アー

可哀さうなフィデール！ 早く往つて病氣を見舞つてやらう。あの眞青な顔へ血を通はすためになら、あのクローテンのやうなやつ血は、一分だけ絞つたつて、いゝ慈善をしたと思ふのだがなア！

アーギレーガス 入る。

ペラ

お、神聖な天性よ、あの二人の王子たちの言葉や仕草に、それがおのづから現れる。平素は微風のやうにやさしくツて、壺莖の可愛い頭をさへ振らせないほどだが、あの氣高い心が興奮したりといふと、山の松を谷へ壓曲げる暴風のやうにもならつしやる。不思議なものだ、だれも教へはしないけれど、目に見えん本能の力で、王子らしい氣象が備はり、名譽を重んじ、竝の者とはちがひ、禮儀の心得もあり、蒔かない種から立派な武勇までが結實つてゐる。……だが、やつぱりクローテンの事が氣になる。何でここへやつて來たか？ あれを殺したゝめに、こちとらがどういふことになるか？

ギテリヤス 又出る。

ギテ

弟は何處へ？ クローテンの頭は河下へ流してやつたよ。お袋のところに使ひにやつた。胴體は歸つて來やがるまでの人質だ。

此時奥にて嚴肅な、さびしい音樂がはじまる。

ペラ

ありやおれの、あの奇妙な樂器の音色だ！ なア、ポリドーア、鳴つてゐるだらう！ 何でカドラルがあれを弾きはじめたか？ ほら！

ギテ

やつは家にゐるの？

ペラ

つい今歸つてきたよ。

ギテ

何の爲だらう？ 阿母さんが死んで以來、鳴らしたことはなかつたのに。嚴肅な物は嚴肅な場合にのみ使ふべきだに。どうしたのだらう？ たはでもないことを祝つたり、くだらんことを歎いたりするのは、猿や子供のすることだ。カドラルめ、氣でもちがつたか？

ペラ

あ、あそこへカドラルがやつて來た、今わるくいつた其悲しい原因を兩手で抱へて。

アーデレーガスがまるで死んだやうになつてゐるイモーゼンを

抱きかゝへて出る。

ア— (かなげに) あんなに可愛がつてた鳥が落ちツちまつた。こんな目に逢ふよ
りか、僕ア十六から六十までを一足飛びにして、跳ね廻れる時代を撞木杖
に換へたはうがよかつた。

ギデ (同じく萎れて) おゝ、可愛い、此上もなく綺麗な百合の花よ! 弟に抱いて
貫つてゐるお前は、獨り立で咲いてゐた時とは大變な變りやうだなア!

ベラ おゝ、深い、暗い沈愁よ! 汝のどん底を測量し得たものがあつたらう
か? 徐緩い汝の船體が一等たやすく寄泊し得る港はどこかと、その岸の
底泥までも曾て探検し得た者が一人でもあつたか? ……あゝ、フィデル

よ! お前が成長したら、どんな立派な男になつたかは天神様だけが御存
じだ。が、お前は、あゝ、暗い、深い沈愁のために、立派な子供のまゝで死ん
でしまつた。……(アーゴレーガスに) 先刻、此兒はどうしてゐた?

ア— この通り硬くなつてゐた。この通り笑ひ顔をしてゐた。死の矢に中つ
たのではなく、眠つてゐるところを探られたといふ風に、死を馬鹿にして。
右の頬が座薄團に載ツかつてゐた。

ギデ どこにゐたい?
ア— 床の上に。腕をこんな風に組んで。僕は眠てるのかと思つて、鉄打の粗
靴を脱いだのさ、歩きたびに酷い音がするから。

ギデ (つくづくイモーセンの顔を見て) まるで眠てるやうだ。いよゝゝ死んぢまつて、
墓を寐床にするやうになると、女の妖精どもが附纏ふだらうから、いやな
蟲なんかはお前のところへは一疋だつて來やしないよ。

ア— フィデルよ、僕は夏中はこゝに住んで、一等うつくしい花でお前の情け
ない墓を愉快にしてやるよ。絶えずお前の顔のやうな花を供へてやる。
白い櫻艸やお前の脈のやうな青い筋のある釣鐘草や香荆棘の葉を。だ

が、わるくいふのぢやないが、逆も荆棘なんかお前の息の香ひには叶はな
いや。 それらを駒鳥があゝの慈善的な嘴で……裕かな財産を親から譲られ
ながら親の石碑一つ建てない不孝者共を恥ぢしめるといふ噂のある嘴で
……くはへてくるのだ。 また、花のない時分には、毛皮のやうな苔をね、
お前の此死骸を冬籠りさせるために。

ギデ

(弟を制して)もうよしな。 嚴肅にすべきだ。 女のいひさうなことをいふの
はいけない。 さ、埋めよう、いつまでも驚歎したり、讚美したりしてゐて、
葬式をおくれさしちやならない。

ア

どこへ葬るのだい?

ギデ

ユーリファイルの……阿母さんの傍へさ。

ア

さうしよう。 ねえ、ポリドリア、もう僕は成人になりかけて、聲が變にな
つてゐるけれど、阿母さんの時のやうに、埋める間、歌をうたはうよ。 あの

歌の文句のまゝを同じ調でうたはう。 ユーリファイルといふ名だけをフィ
デールに變へてね。

ギデ

カドラル、……僕は逆も歌ふことは出来んよ。 只泣かう。 さうして平常
の語の調子で聲だけ合せよう。 調子ッばづれの弔ひの歌なんかは、僧の
空ツ讚や空々しい墓誌よりも下さらないものだからね。

ア

ぢや、只しやべるやうに歌はうよ。

ペラ

(歎息して)大きな苦痛は小さい苦痛を療すと見える。 ついクローテンの事
を忘れてゐた。 なア、子供ら、彼れは妃の息子だ。 こちとらの敵ではあ
つたが、もう十分に罰を受けた。 偉い人も、つまらん人間も、腐ツちまへ
ば同じ塵あくたとはいふものゝ、尊敬心といふ下界の天使は、貴賤上下を
其位置で分けるが定りだ。 敵ながらも王族だ。 敵だから殺したけれど、
王族らしう葬つてやんなさい。

ギテ ちや、死骸しがいを持つて来て下さい。死しんぢまつて見みれば、セルシチスもア
 ジヤックスも五分ぶぶん々々だ。
 アー お父とつさんが死骸しがいを取りにいつてる間に、二人ふたりで歌うたはうよ。兄にいさん、おはじ
 めよ。

ベラリヤス入はひる。

ギテ (イモーゼンの體たを横臥よこがしつゝある弟あにに) いゝえ、カドラル、頭あたまは東ひがしの方ほうへやらなく
 ツちやいけないよ。お父とつさんがさういつたよ、何なにか理由わけがあるんだ。
 アー あ、さうだつた。

ギテ ちや、はじめよう。死骸しがいをそつちへおやりよ。
 アー よし。……はじめたまへ。

(うた)

ギテ 恐おそるゝな夏なつの暑あつさも今いまはゝや、

はげしき冬のふゆのあらしをも。

此世このよの勤つとめ成なしはてゝ

其代そのしろも得えて行く旅路たびぢ。

あゝ、富とみたるも貧マブしきも

身みまかればおなじ塵ちりあくた。

恐おそるゝな酷むごき苛責かじやくも、にくしみも、

今いまは汝なれには及およばじを。

衣食いしょくも最も早はやこゝろすな、

汝なれには櫛かし、芒かや一つなり。

笏しやく、學がく、醫藥いやくなべてみな

おなじ路邊みちべの塵ちりあくた。

ギテ 恐おそるゝな空そらにひらめく稻妻いなづまも、

また怖ろしき雷霆も。

恐るゝな人のそしりも濡衣も、

悲喜二つともはや過ぎぬ。

世のうら若き戀人も

ギデ
アー
みな汝れが友、塵あくた。

魔術師も、なせよ汝れに災ひを！

アー
仇をばすなよ魔女もまた！

ギデ
浮ばぬ靈も汝を忍べ！

アー
禍事はなべて近づくな！

二人
安けき終焉遂げて世に

名をし知られよ汝が墓場！

歌が終つた途端にベラリヤスがクローテンの首のない死骸を持

つて出る。

ギデ
葬式はすましました。さ、其死骸をおろして下さい。

ベラ
今はたつた少し、か花がないが、夜中にはもつと殖す。墓に撒くには冷

い夜露のかゝつてゐる草花が似つこらしい。……顔のところへ撒きな。(イモ

ーセンに) お前は花のやうだのに、もう凋んでしまつたなう。今撒く此草

花も、もうぢき凋んでしまふだらう。さ、さ、あつちへ。めいゝ別々に

お祈りをしよう。あゝ、土から生れて土へ歸るのだ。此世の樂みが

なくなつた代り、彼等にはもう苦みもなくなつた。

ベラリヤス、ギルデリヤス、アーゼレーガス入る。やゝ暫くして、イモーゼ

ンは眠から醒めはじめぬ。

イモ
(夢を見てゐるらしく) はい、さうです、ミルフオオド・ヘーヴンへ。どつちへ參

るんです？……ありがたう。……あの鏡のそばを？……あの、どのくらゐ

あるんでせう？ おやく！ まだ六哩も？……夜通し歩いたのです。
 はア、横になつて寐ませう。ちよいと、あの！ 一しよに臥るのは困りま
 すよ！……（ふつと目を開いて）お、男神達！ 女神達！……

花を見て駭き、死骸を見て駭く。

此草花は現世の樂みの記號かとも見えるけれど、此血だらけの死骸は其苦
 みの符牒のやうだ！ こりやよもや夢だらう。窟に住んで正直な人達の
 ために料理をしてゐたと思つたつけが、さうでない。あ、跡形もない煙
 を的にして夢心地が射放した空な想像の箭であつたか！ 目で見たこと
 も、どうかすると、當にはならない、考へたことが當にならないとおなじや
 うに。……やつぱり怖くて身が慄える。お、こはい！ 神々さま、若し
 まだわたくしを露ほども、鶺鴒の目ほども可哀さうだとおぼしめしま
 すなら、お慈悲を下さいまし！……あ、まだ夢が覺めないのだ。もう起

きてるんだのに、外にも内にも見える。想像ばかりぢやない、感じてゐる。
 あ、此死骸には首がない！ おや、こりやポスチューマスどの、上
 著だ！ 脚の格好も……この手もたしかに。爪先はマーキュリー、股はマ
 ーズ、腕はハーキュリーズ、顔はジョーヴ其まゝのわが夫……こりや天で虐
 殺でもあつたのか？ そのジョーヴのやうなお顔がない。ま、どうしたん
 だらう！……お、ピザニオめ、おのれ、むかし泣き狂ふへキューバが希臘
 人に與へた其呪ひのすべてに加へて、わしの此呪ひを受けをれ！ おのれ
 があの無法者のクローテンに一味して、わが夫を殺したに相違ない。も
 う將來は手紙は決して信ぜられない。あのピザニオめが、僞手紙で……
 にくいやつめ！……此立派な殿堂の大屋根を破壊してしまひをつたのだ。
 お、ポスチューマスどの！ あ、顔はどこに？ どこにあなたの顔は？
 あ、あ、どこに？ ピザニオめ、たとひあなたを殺すにしても、心を刺

して、せめてお顔を残しておいてくれたら！ それにしても、どうしてこんなことになり？ ビザニオが知らず？ きつとクローテンと二人だ。怨みと慾とでしたことであらう。お、きつとさうだ、きつとさうだ！ 貴い良薬だといつて彼奴がくれた薬、あれを服んでわたしは既の事に死んでしまつた！ さうだ、あれがたしかな證據だ。ビザニオとクローテンがしたことには相違ない。お、！ だれか来るかも知れないから、わたしの此青白い頬へあなたの血で怖ろしげな色を付けて下さい、威しのために。お、あなた！ あなた！

死骸の上へ倒れる。
暫くして、ルーシヤスを先に一人の將校と他の武官らが出る。
その後から占ひ者が出る。

將 　　まだ其者共の外にも、例のゴリーヤに出張してをりました諸聯隊が、御希

望通り、海を渡りまして、既に此ミルフオオド・ヘーヴンに於て、御引率の諸船と一しよになつてをります。戦備は悉く整つてをります。

將 　　だが、羅馬からは何といつて來たね？
元老たちが激勵されましたので、隣國の諸民族や伊太利の貴族たちが、いづれも自ら進んで、立派な働きをいたさうと約束をしまして、シエンナの舍弟ヤキモーと申す立派な人物に率ゐられて参加するさうにございます。

ル 　　いつごろ來るだらう？
順風のあり次第に參るでございませう。

將 　　迅速に手配りが行き届いて、大きに安心した。今ゐる兵を悉く召集なさい。將校連にそれをお命じなさい。……(占ひ者に)とこゝろで、夢占はどんなですな、此度の戦争の見込は？

占者 　　昨夜……かねて精進潔齋の上で、神々のお導きを祈願いたしおきましたと

ルー

ころ……お告げがございました。それはかやうです。ジョーヴ神のお使はしめ即ち羅馬の鷲が濃霧の南の空から此西方へと志して翔りまして、やがて日光の中に消え去りました。これは……手前に罪惡があつて占力を損ひますれば格別……たしかに羅馬軍大勝利の知らせでございます。折々さういふ夢を見て而も間違はんやうにして貫ひたいなう……（ふとイモーセンと死骸とを見附けて）おや！ まて！ 首のないあの死骸は？ 服装によつて察するに、立派な身分の者であつたらしい。おや！ 小姓が！ 死んでゐるのか？ 死骸にもたれて眠てゐるのか？ いや、死んでゐるんだらう。死骸を寢臺代りにしたり、其上へ眠たりする筈はない。自然の情として忌み嫌ふべき筈だ。生きてをります。

將

ルー

では其死骸のいはれを聞いて見よう。……こら、少年、お前たちはどうした

イモ

の…… 履歴を聞く必要がありさうに思はれる。お前が枕にしてゐる其死人はだれだ？ 神のお描きになつた立派な畫像を誰れが勝手に破つたのだ？ その死骸とお前とはどういふ關係だ？ どうしてさうなつたんだ？ だれだそれは？ お前は何者だ？ わたくしは何でもない者です。でなきや、いつそさう



なつたはうが優しだと思ひます。これはわたくしの旦那さまで、勇敢な、善良なブリテイン人でありましたが、こゝで山にゐる野蠻の爲に殺されました。あゝ、悲しい！ もうこんな旦那さまはありません。東の端から西の端まで奉公口を捜し歩いて、いゝ旦那もあつて、あつちこつちで、奉公して見たからつて、もう逆もあんな旦那さまはありません。

ルー やれ／＼、氣の毒な！ 死んでゐる主人の姿を見ただけでもだが、その歎きを聴くと、尙と氣の毒な。主人の名は何といふのだ？

イモ リチャード・デュー・シャムプと申しました。(傍白)嘘をいつたつても、他の害にさへならなけりや、神さまも聞流じて下さるだらう。……へい、何でございませう？

ルー お前の名は？

イモ ファイデール(忠吉或は實王の義)です。

ルー お前の行ひが善くお前の名を證明してゐる。名が其忠實振にふさはしく、其忠實振がまた其名にふさはしい。おれに奉公をする氣はないか？ もとの主人に劣らんぞとは敢ていはんが、たしかに可愛がつてやる。お前自身の價打が、國の執政から送つてよこした羅馬帝の勅旨以上にお前を推薦する。おれに従いて來な。

イモ お伴いたします。ですが、其前に、神々さまがお許しなら、此指で掘れる限り、深い穴を掘つて、旦那に蠅のたからんやうにしたうございませう。さうして其墓穴へ木の葉や草の葉を撒いて、知つてゐるお祈りの文句を百ばかり二回りも唱へてから、泣いたり溜息したりして、御奉公をさめをして、それからお伴がいたしたうございませう。若しお使ひ下さいますやうなら。うん、使つてやる、といふよりも寧ろお父さんになつていたはつてやる。……諸君、……此少年の今の話で、われ／＼成人のなすべき義務に心附いた。

あれのために、雛菊などが咲き亂れて、いかにも可憐げに見えるやうな場處をさがし、そこを其矛や槍で掘つて、墓穴をこしらへてやりませうよ。
 さ、あの死骸を擔ぎあげな。少年、お前といふ推薦者があるから、武骨人の力で出来る限り、丁寧に埋葬してやるぞ。泣くな。涙を拭きな。倒んだのが却つて一層の幸福を得て起上る便宜になることもある。

入る。

第三場 シムベリンの王宮の一室

シムベリン、貴族ら、ビザニオ及び従者ら出る。

シム もう一度往つて見て、妃の様子がどんなだかを知らせろ。……

一 従者入る。

倅がゐなくなつたので、狂氣のやうになつて、熱が高ぶり、もう彼女の命はあぶない。あゝ、神々よ、どうして斯う一時に手強くわたくしをお苦めになるのです？ 主な慰めの女イモーゼンは出奔する、折も折、妃は必死の床に就く、おそろしい敵は攻め寄せる、片腕ともなる倅までも行くへが知れない。慰めやうもない不幸づくめだ。……(ビザニオに)やい、奴、汝は姫の行くへを知つてゐる筈だのに、知らん振をしてゐるからは、拷問しても白状させるぞ。

ビザ

へい、手前の一命はさしあげます。御存分になさいまし。ですが、お姫さまの事は、どこにおいでやら、なぜお出かけになりましたやら、いつお歸りなさいますやら、手前は少しも存じません。御前さま、わたくしをお信じくださいまし。

貴一

御前、彼れは、お姫さまのお見えにならなくなりましたあの日に、こゝにをりました。で、多分、あくまでも忠實に、御家來たるの務を盡しませうかと存じます。又、クローテンどの、儀は、懈怠なく取調べてをりまするか、程なく相解りますでございませう。

シム

あゝ、氣にかゝることばかりだ。(ビザニオに) 當分は赦しとくが、疑ひはまだ釋けんぞ。

貴一

えゝ、申し上げます、ゴリーリヤを引きあげました羅馬の諸隊が、新たに元老共が派遣しました貴族軍に補充されて、いよゝ當國の海岸へ上陸したと申すこととでございませう。

シム

あゝ、倅や妃がゐれば、斯ういふ時に相談敵手になるのに！ 事件が重大なので頭が混亂する。

貴一

御前、わが軍の兵力も決して只今申しあげた敵のそれに劣りはしません。

シム

敵勢がもつと殖えましても大丈夫でございませう。 尺ひとへに進軍の御命令の下りますのを俟つてをります。

ありがとうございます。 奥へいつて、臨機の處分をしよう。 伊太利軍の來襲は敢て恐れないが、この種々の出來事を悲しむんだ。……あちらへ！

ビザニオだけ残りて皆入る。

ビザ

旦那さまから何の便りもない、イモーゼンさまを殺しましたとお知らせしたのに。 奇態だ。 また奥さまからも知らせがない、折々便りをするといふお約束だつたのに。 クローテンはあれからどうしたか、それも分らん。何もかも解らんづくしだ。 つまり、神さまにお任せするより外に爲様がなない。 おれは斯うして嘘をついてるのが正直なので、忠義のために不忠實をするのだ。 こんどの戦争はおれの愛國心を見せるいゝ機會だ。 それで王のお目に留るか、その前に戦死するかだ。 其他の疑問は時が解決す

るまゝにしておかう。運命てやつは思ひがけない寶舟を乗込ませることがあるから。

入る。

第四場 ウェールズ ベラリヤスの窟の前

ベラリヤス、ギテリヤス、アーゼレーガス 出る。

ギテ あつちにもこつちにも騒々しい物音が聞える。
ベラ 逃げよう。

アー ねえ、お父さん、生きてゐたつて詰らないぢやないか、活動もしなければ、冒険もしないで、閑籠つてばかりゐるんぢやア？

ギテ いゝえ、お父さん、隠れたつて駄目だよ！ そんなことをすりや、羅馬人はこちとらをブリテイン方だと思つて殺すか、でなきや野蠻な、不逞の徒だと思つて、入用な間だけ使つて、後で殺すに違ひないから。
ベラ すつと山手へ逃げりや大丈夫だ。王の陣へ身方をしに行くのはいけな

い。クローテンが死んだばかりのときだ……こちとらは徴集されたのでなく、見知られてゐないから……どこに住んでゐたなんぞと聞き糺されるうちに、したことが露顯して、長い苛責の末に、殺されなければならんから。

ギテ ねえ、かういふ場合にそんな事を案じておいでなさるのはお父さんにも似合はんよ。僕たちはどうしても呑込まないねえ。

アー そんなことはありさうにないや。羅馬の戦馬の嘶きは聞える、敵陣の篝火の燃えるのは見える、目も耳も緊張し切つてゐる時に、こちとらが何處か

ペラ

ら来たなんて、そんな穿鑿に時間をつぶしてをられるものかね。

お、王の旗下には、おれを見知つてる者が幾らもある。久しぶりだつても、ちやうどおれが幼い時分のクロードの顔を覚えてゐたやうなものだ。のみならず、王はあんな人だ、おれはもとより、お前たちも奉公するにや及ばん。王におれが追放されたゝめに、お前たちは餘儀なく辛い生活をして、教育も受け得なんだ。いや、搖籃に臥てゐた時分とはちがつて、荒々しい取扱ひを受けて、夏は熱い日に焼き立てられ、冬は寒い風に縮みあがる奴隷生活をせないわけにいかなくなつたのだ。

ギテ

そんなことばかりしてゐるよりやア死んぢまつたはうがました。ねえ、戦争に出ませうよ。僕や弟は顔を知られてゐやしない。あなたゝつて、もう忘れられてるよ。それに、髭むしやだから、氣が付きやしませんよ。あの太陽を誓言に掛けて、僕は往く。人間の殺されるのを見たことがな

ア

いなんて、何のこつた！ 血をすら殆ど見たことがないんだ、臆病兎とか、淫亂野羊とか、死んだ鹿の肉とかの外には！ 馬にも乗つたことがないや、僕らのやうな田舎ッべいの騎る、拍車も鐵杵も附けてゐない馬の外には。あの太陽の顔を見るのも恥づかしいや、結構な光線に照らされてゐながら、いつまでも〜詰らん人間であるのは。

ギテ

是非共！ 僕は往く。お父さん、若しあなたが祝福をして、さ、いつて来いといつてくれりや、身體を大事にするけれど、さうしてくれなけりや、羅馬人にぶツつかつて殺されたつてかまふもんか！

ア

僕もさうだ。アーメン！

ペラ

お前たちがさう命を安ツぼく扱ふ以上、こはれ物同然の此おれの餘命なんか惜しがる理由はない。一しよにゆかう、子供ら！ 國のためにお前たちが戦死するやうなら、おれもそこを寐床にする。さ、先へ〜。(傍)

待遠まちどほしいのだ。氣高けたかい血統けつとうが侮辱おとしやくされたやうに感かんじるのだ。で、飛とび出だして王者わうしやの子こたることを示しめすのだ。

入はいる。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

第五幕

第一場 ブリテイン 羅馬ローマの陣營ちんえい

ホスチューマス 血ちの附ついたハンケチを持もつて出でる。

ホス

さうだ、血ちみどろのハンケチよ、おれはお前まへを保存ほぞんしよう、おれがいひつけて斯かういふ色いろに染そめさせたのだから。あゝ、世間せけんの結婚けつこん者しやよ、若もしお前まへらがめいゝおれのやうに、些細さいさいな不埒ふちちを咎とがめ立たてしたなら、自分じぶんよりは優まさつた妻つまを何十人なんじゅうにん、何百人なんひゃくにん殺ころさなけりやならんか知しれない！ おゝ、ピザニオよ！ 良いい家來けらいて者ものは必かならずしもいひつけられたことを行おこなふもんぢやない。

正しい事以外はしなくてもいいのだ。神々よ！ 若しもあなたがたがわたくしの不埒をお憎しみになつて、もつと早く命を縮めておいて下さつたなら、こんなわるい事をさせる筈はなかつたのです。すなはち、あの立派なイモーゼンをば存へさせておいて、懺悔をさせ、不埒なわたくしには嚴罰をお下しになつたほうが當然でした。けれどもあなたがたは、わざつと或者をば些細な不埒の故にお引取になる、それは、其以上の悪事をさせまいといふ御慈愛からであるのだ。また或者をば重ねて下さる、甚しい悪事を犯させ、彼等をして之を怖るゝに到らしめたまふ、さうしてそれが其者の利益になるのだ。だが、もうイモーゼンはお手元へ參つてゐる。何事も御意に任せます！ どうぞ宜しくお導き下さいまし！……伊太利の貴族連の仲間へ入つて、妻の國を攻めるためにやつて来たんだが、あゝ、ブリテイン國よ、おれは此國の王女を殺したゞけで、もう澤山だ。もう和

睦するよ！ お前に創なんか附けたくない。……だから、神々よ、お聞き下さい、わたくしは此伊太利服を脱いで、ブリテインの農夫の装をして、一しよに來た者を敵にして戦はうと思ひます。さうして、おゝイモーゼンよ、お前のために死ぬ積りだ。お前の事を思ふと、生きてゐても、息をするたびに、死ぬやうな苦みをする。だから、斯うして、人にも知られず、憫れまれも、憎がられもせず、戰場で命を捨てる積りだ。身装に似合はない勇氣を現して、敵身方を驚かしてやらう。神々よ、リオネータス家の強い力をわたくしにお與へ下さい！ 世間の常習を恥しめるために、外は粗末、内は立派の新しい遣り口を流行らせてくれよう。

入る。

第二場
ブリテインの陣營と羅馬のそれとの間の原野

一方からは羅馬軍をひきぬて、總大將のルーシヤスを先に武装したヤキモーが従いて出て、他の方へ通り過ぎてしまふ。と他方からブリテイン軍が出る。最もおかれて、ボスチューマス・リオネーダスが貧しい農夫らしい服装をして従いて出る。この一群も反對の側へ通過してしまふ。暫くして、ヤキモーとボスチューマスが激しく立廻りながら又出る。と、ヤキモーはボスチューマスのために打負かされ、剣を叩き落されて、倒れるとボスチューマスは入る。

ヤキ
胸に重い罪があるんで、勇氣が出ない。おれは此國の王女を譴誣して陥

れたんだから、こゝいらの空氣までが復讐的におれをいたためつけるのだ。さうでなきや、あんな農夫が、自然界の下司奴が、武術比べでおれに勝つ筈はない！ 勳爵や武名を有つてゐても、おれのやうぢやア、それが輕蔑の稱號にしかならない。ブリテインよ、若しもお前の國の貴族が、今のあの田舎ッべいがおれの國の貴族以上である如くに、あいつ以上だとすると、こちららがあぶなく人間以下であるのに對して、お前らは殆ど神さまだといはんけりやならんかも知れない。

萎々として入る。

激戦がはじまる。と、ブリテイン人が敗北する。王シムベリンは羅馬兵のために捕虜にされる。と、爰へベラリヤス、ギテリヤス及びアーデレーガスが出て奮戦して、王を救ひ出さうとする。

ベラ (潰走するブリテイン人を呼び戻しつゝ) 逃げるな〜！ ふんごたへろ！ こち
 とらは地の利を得てゐるんだ。此狭い路を要してゐるんだから負ける氣づ
 かひはないんだ。臆病根性さへなけりやア。
 (聲を揃へて) まて〜！ ふんごたへろ！ 引ッ返して戦へ！ ふんごたへ
 ろ！

アキデ

ルー (イモーセンに) 汝は早く軍隊から逃げて、命を助かるやうにしろ。かう亂軍
 になると、まるで軍の精靈が目隠しでもされたやうに、同士打がはじまる
 から、あぶない。
 (向うを見て) 今のは敵の新手です。
 勝敗が妙な風に逆轉してしまつた。早速援兵を呼ぶ歟、でなきや逃げる
 より外にしやうがない。
 入る。

ルー

ヤキ

ルー

入る。

第三場 戦場の他の一部

ホスチューマスとブリテインの一貴族と出る。

貴 お前は彼等が踏止まつて戦つてゐたところから来たのか？
 ホス さやうです。あなたは逃げてゐたお仲間のやうですね。
 貴 さうだ。

ホス

御無理はありませんや。天のお助けがなかつたら、全く駄目でしたからね。王御自身も兩翼を挽がれてしまひなされる、全軍潰裂、ブリテイン人は只もう脊中ばかり見せる、みんながあの狭い一筋路を逃げるんですから。敵は勝ち誇つて、其持つてる武器では扱し切れん程の殺戮をする、さうして疲れて、はア〜いつて、舌を垂らしてゐる。身方は、或は必死の傷を負ふ、或は薄手を負ふ、或は恐怖の餘りぶツ倒れる。それで以てあの狭い路が後ろ傷を負つてゐる死人と死んだ後までも恥を脊負つてゆかうといふ臆病者とで塞がツちまつたのでした。

貴

其狭い路てのはどこだね?

あの戦場のすぐ傍です、溝があつて、堤が城壁のやうになつてゐます。それが一人の老兵に足場を與へたのです。髭が眞白になるまで養はれた國恩に報いようといふ忠義者でせう、きつと。其老人は、二人の少年と共に

ホス

あんな殺戮なんかするよりやア田舎で走ッ競でもしてゐたほうが當然の、半假面でもかぶらせたはうが、いや、人目や日焼けを避けさせるために頭巾や假面をかぶる手合よりも美しいくらゐの小僧ツ子と共に：：踏んまたがつて其狭路を截ち切つて、逃げる者に對つて「鹿や兎なら逃げながら死ぬも可いが、ブリテイン人が其ざまは何だ?」逃げる者の靈魂は地獄へ墮ちろ。ふんごたへろ! 待て! 待たんけりや俺達は羅馬方になつて、汝らを獸類扱ひにしてぶち殺すぞ、獸類根性で突走るなら。が、怖い顔をして引返しやア助けてやる。ふんごたへろ〜! と呼ばはり〜、其三人が三千人であるかのやうに自信して、全軍に代つて働いたから、取りも直さず、三千人分の働きでさ、他の手合は何にもしないんですからね。地の利はある、おまけに其三人の立派な行爲が：：絲取り竿をも投げ槍に換へさせたでもあらう其魅惑的な働きが：：さすがの青ツ面連をも且つ



恥ぢ入らせ且つ奮起させたから、殊に
 つい釣込まれて臆病者になつた手合
 なぞは……お、戦争の罪悪てのは其
 真先に逃げて總崩れの種を蒔いた奴
 らだ！……其三人に教へられて、目を
 怒らし、齒をむき出し、獅子が獵人の
 槍に對ふやうに働きはじめたから、そ
 こで以て敵の追ひ撃が止んで、退却と
 なる、忽ちにして敗走、ごつた返す大
 混亂。前には鷺のやうに舞ひ下つた
 奴らが、今は雛鷄のやうに突走る。勇
 士ぶつて大きくなつてゐた奴らが、今

は奴隷のやうに小さくなつて逃げる。さうなると、わが軍の臆病連も、難
 破船の斷片同様、おの／＼幾らかの役に立たうといふものでさ。敵の裏
 門が明けッ放しになつてゐるのを見て、奴らめ、無暗と殺傷をはじめた！
 既う殺されてゐるのや、死にかゝつてゐるのや、或は敵の先刻の追撃でやツつ
 けられて倒れてゐた身方の者まで！一人に追はれて逃げた十人までが
 今はめい／＼二十人をも殺すといふ有様。只もう意氣地なく死なうとし
 てゐた手合までが、戰場に於ける怖物に豹變したんでした。
 不思議なことだつたねえ、どうも！ 狭い路に、一老人と二少年！
 不思議がるにや及びませんや。あんたなんざア、いつも聞いて不思議が
 つてばかりゐて、自分で不思議な働きをしたことあるまい。駄洒落の
 小歌でも作つて賣出しちやどうですぬ？ 早速一つ出來た。
 子供二人と爺さんと

狭い路とがブリテインを
助けて敵をば敗りたり。

貴

(大きにしよげて) さう腹を立つちやア困るねえ。

ボス

腹を立つものかね、何のために！ わたしは敵に對ひ得ないやうな人が好きさ。 さういふ人は、逃げるが持前なんだから、友達にならうといつても、すぐ逃げるでせうからね。 あんたのお庇で、つい歌が出来ッちまつた。

貴

(いよ／＼しよげて) さよなら。 怒つちやア困るねえ。

と行きかける。

ボス

やつぱり逃げますね？……

貴族入る。

(見送つて) あれが貴族だ！ あゝ、情けないお貴族さままだ！ 戦争に出てみながら、戦場の模様をおれに聞かうといふのだ！ けふの戦で、何人あん

な奴らが其面目玉を抛り出したらう、死骸になるまいために！ そのために突走りながら而も殺された手合が大勢だ！ おれは自分の不幸が生中の禁厭にでもなつたのか、死がうん／＼うめいてゐる中にゐながら、どうしても死に運り逢ふことが出来ず、たしかにやられたと思つても、身にこたへないでしまつた。 奴は醜な化物なのに、愉快な酒盃や、柔い寢臺や、美しい言葉の中に潛んでゐたりして、戦場で劍を揮ふ者以外に其取扱ひ係りを持つてゐるのは不思議だ。 まあ、そのうちにやアぶツつかるだらう。 : : 運命がブリテイン人に最負する以上、おれはもう元の身方へ逆戻りをしよう。 もう戦はないで以て、一寸でも此肩へ觸を奴がありやア、どんな農夫にでも降参しよう。 随分手ひどい虐殺を羅馬人がしたんだから、ブリテイン人もきつと手ひどい仕返しをするだらう。 が、おれに取つちやア殺されるのが身受だ。 どちらへ往くのも、つまり、此息を引取りたい爲

だ。もう生きてゐる氣はない。どうかして早く死にたい、イモーゼンのために。

ブリテインの將官二人と兵士大勢出る。

將一

こりや全くジュピター大神のお加護だ！ ルーシヤスが捕虜になつた。あの老人と息子二人は天使であつたらうといふ噂です。

將二

まだ外に、田舎者の服をしてゐた男があつて、彼等と共に防戦してゐたのですぜ。

將一

さういふ噂です。が、四人とも行くへが知れません。……（ポスチューマスを見て）まてッ！ だれだそこにゐるのは？

ボス

羅馬人だ。……外に身方の者がありやア、こんな風に意氣沮喪しちやアゐないんだが。

將二

それ、取りおさへる。畜生！……羅馬人の脛の一本をも本國へは歸らし

やしないぞ、どんな鴉が彼等をつついたかを報告させるためには。……中
中の働きをした奴らしい。高言を吐きをる。王のお前へ引ッ立てる。

王シムペリンを先に、ベラリヤス、ギデリヤス、アーギレーガス、ヒザニオ、兵士
大勢、従者大勢及び羅馬の捕虜ら出る。將官一、二はポスチ
ューマスを引ッ立て、シムペリンの前へ連れて行く。とシムペリ
ンはそれを半役人へ引渡す。それが濟むと、一同入る。

第四場 ブリテイン國の獄舎

ポスチューマスと半役人一、二が出る。

宰一

（ポスチューマスに手枷、足枷を掛けて）さ、これなら盗まれなざる氣づかひはない、

錠が掛けてあるから。旨さうな草が目附かり次第、たんとお食り。

馬を牧場へ野放しにする時には、其脚へ錠を掛ける習慣があつた。それに譬へて牢役人が洒落をいふ。

牢二 さうだ。でなきや、腹が北山になり次第にね。

つまらん洒落をいひながら入る。

ボス

(手枷をながめて)手枷よ、ありがたい! よう掛かつてくれた。かうされる

のが、おれの爲には解脱への道だ。このほうが痛風患者よりは優しだ。なぜなら、彼れはいつまでも呻き苦むのだが、おれは死といふ名醫に療治して貰ふ



んだ。死は此錠を脱す鍵だ。あゝ、良心よ、お前は此脛や腕以上に枷を掛けられてゐる。善良なる神々よ、此良心の枷を脱す懺悔滅罪の道具を與へて下さい。さうなりや、永久に自由な身になられる! 只後悔すりやそれでいゝのか? 現世の教父らはそんな風に手輕にいつて安心させるけれど、神々はもつと〜お慈悲深い。おや、苦行をしなけりやならんのか? それには、枷をはめられてゐるから都合がいゝ。強ひられて苦行をするのではなく、望んでするのだ。或は賠償が必要なのか? (天を仰いで) 若しそれで解脱が出来ますものなら、どうか此有りツたけで、お許し下さい。あなたがたは横邪な人間よりは御寛大な筈です。人間は破産した負債者から三分一を、六分一を、十分一を取つたりして、減らし〜して盛返す道を開かせます。わたくしはそれを望みません。イモーゼンの命の償ひにわたしの命をお取り下さい。あんな大切なのちやありませんけ

れど、とにかく命です。あなたがたが御鑄造になつたのです。人間界では、たとひ貨幣に軽重があつても、其國柄が同じでありや、みんな同等に通じます。どうぞ此命を、あなたがたの物ですから。おゝ、神々よ、只今の清算報告を御聽許下さいますなら、此命をお取りあげの上、どうぞ此冷い證文を帳消しになすつて下さいまし……おゝ、イモーゼンよ！ 今に幽界で話をしませう。

ボスチューマス 疲れ果てた體で眠る。
嚴肅な音楽、

ボスチューマスの父シ、リヤス・リオネータスの亡霊が出る。勇士らしい武装をした老人である。其妻であり、ボスチューマスの母であつた老女の亡霊の手を引き、樂人群を先き立て、出る。と、つゞいて、他の樂人群を先に立て、ボスチューマスの兄に當る二人の若いリオネータスが出る。二人とも戦死した者の亡

靈なのだから、手創を貢つてゐる。此四人の亡霊が徐ろに進み寄つて、眠つてゐるボスチューマスを圍繞する。

シ、リ

おゝ、爾いかづちの主なる神よ、もはや蠅蟲做す人間を憎む勿れ。

寧ろマーズと争ひ、女神ジューノーを罵れ、

爾の邪淫を怒つて報復を圖るジューノーを。

其面をだに見知らぬわが遺子が

何等かの善き業を成したりとや？

予は彼れが未だ自然の則を俟ちて

母の胎に留れりし時に死につ。

されば彼れが父は、世に所謂

「孤兒の父」の爾にてこそあるべけれ。

母

爾は須らく彼れを庇護して
 斯生の此痛苦を免れしむべし。
 出誕神も其助けをわれには與へで、
 産苦のうちにはわが命を奪ひつ。
 さればボスチューマスは母より裂かれて
 其産聲と共に敵手に落ちたり。

あゝ、あはれなる者かな！

シ・リ

其祖先を辱めぬ英邁の資が
 いみじくも其性を形成りたれば、
 當然の結果として、彼れは天下の讚め物となりぬ、
 大シ、リヤスの後繼として。
 彼れの丁年に達したりしや、

兄

廣きブリテイン國に

いづこに彼れと比肩し得し者のありし！
 また他の何等の者か、いとよく彼れを知れる
 イモーゼンの目に、見るに足りし？

欺かれて婚を終へぬるや否や、

彼れは追放の身となりて、

リオネータスの宿より投げいだされ、

其いとしき妻との仲をも裂かれつ、

うつくしきイモーゼンとの仲をも。

シ・リ

伊太利の賤奴をして
 彼れが心を掻き亂さしめ、

弟

無要の疑念を彼れに抱かせ、
 徒らに他の毒計の
 淺ましき犠牲とはならしめしぞ？
 さればこそエリシヤムの幽境より
 われら父母と共に來りたり、
 嘗て國のために勇戦して
 空しくなりしわれら二人、
 一には忠勤の約あるがために、
 二にはテナンシヤス（テナンシヤスの權利のために）
 同じ勇敢なる勤功を
 ポスチューマスは王に爲したり。
 然るに、爾、ジュピターよ、諸の神の王よ、

兄

シ、リ

なにとて彼れが殊勳に對して
 速かに恩賞を賜ふことなく
 却つて悉く憂愁に沈ましめし？
 爾の水晶の窓を開いて、とくと見よや。
 もはや勇敢なる我族に對して
 爾が苛政を施すこと勿れ、
 強大なる毀害を下すこと勿れ。
 あはれ、ジュピターよ、わが子は善なり、
 願はくは彼れの不幸を除け。
 爾の大理石做す館より覗き見よ、助けよ。
 然らずんば、われら憫れなる亡靈は
 他の神々の大會に嗷訴して

母

シ、リ

兄

爾の横暴を糺さしめん。
助けよ、ジュピター。然らずんば嗷訴せん、
復なんちの審判を甘受せざらん。

雷電すさまじきうちにジュピター神が荒鷲にまたがつて天降
つて来て、雷杵を投げる。と亡霊どもは皆ひざまづく。

ジュピ

あゝ、下界の屑々たる亡霊ども、黙れ！

再びわが耳を犯すこと勿れ。汝ら敢て

雷霆の神を弾劾せんとはいかに？ わが雷杵が

天より降らば、苟も叛く者を

其土と共に粉碎するを知れるならずや？

幽冥界の淺ましき影共よ、去れ！

去つて長永に凋まぬ花堤の傍に眠れ！

人間の事故に又と其心を勞する勿れ。

然るは汝らの事にあらず、われらが事なり。

最も愛する者をわれら故意に苦ましむ。

恩賜は之を遅く與へて以て其喜びを大ならしむ。

安んぜよ、零落せる汝が子はわれらやがて助け起さん。

彼れが幸福は日に加はらん。彼れが難苦は既や過ぎたり。

彼れの出誕には吾れジョーヴ其衛星となつて光臨し、

また、彼れの婚儀は、わが神殿にて執行されたり。

起て、而して疾く消え去れ。

彼れはイモーゼンの夫となるべく、

また、此苦を受けしために幸福を増さん。

此小冊子を… 彼れに與ふべき幸運を録したる此書を…

彼れの胸むねに置おきて、疾とくく去され。
再またび不ふ満まんらしく罵ののり騒さわぎて

わがわが大たい嚇かく怒どを招まねくこと勿なれ。

登のぼれ、鷺わしよ、いざ、わがわが天てん上じやうの水晶宮すいしやうきゆうへ。

ジュピター登のぼり去さる。

シ、リ

雷鳴らいめいの最中さいちゆうに天降あまくたつて來こられた。

彼れかの息いきは硫黄いおうのやうに香にほつた。

神鷺かみわしが今いまにも毛爪けづめに掛かけさうに舞まひ下さがつた。

あの神かみの居所みどころはわれくくのよりもすつと結構けつこうださうだ。

あゝ、あの使つかはしめが其その不ふ死しの翼つばさを羽はづくろひして

さうして其その嘴くちばしを研とぎ立たてゝゐる、
其主そのぬしの大おほ神かみの機嫌きげんのいゝ時ときのやうに。

一同

(天を仰いで)ジュピターさま、ありがたうございます！

あゝ、大理石かいりせきの敷石道しきいしみちが閉しまつた。

彼れかはもう其その輝かがやく天井てんじやうへ入はいつてしまはれた。

さア、歸かへらう！ 天惠てんけいを得えるには

謹つとんで彼れかの命めいを守まもらんければならん。

亡靈はうれいども悉ことごとく消きえ去さる。

と眠ねむつてゐたホスチューマスが目めを覺さます。

ホス

(あたりを見廻しつゝ)あゝ、眠ねむりよ、汝おまへは祖父そふの役廻やくまはりをして、おれの爲ために父ちちを生う

み、また母ははと二人ふたりの兄あにとをこしらへてくれた。だが、何なんて人ひとを馬鹿ばかにした

ことだ！ もうだれもゐやしない！ 生うまれるや否いなやゐなくなつちまつた。

さうして此目このめが覺さめつちまつた。……あゝ、王侯わうこうの恩寵おんちゆうを頼たのみにする慘みじな

手合てあひは常住じやうぢゆうこんな夢ゆめを見て、目めを覺さまして見みると、何なんにも貫もへないので失しつ

望する。いや、間違つた、さうぢやアなかつた。大概は恩寵を得ることなんか夢想してはゐない、またそんな値打もない、而も恩寵に浸り切つてゐる。それとおなじに、おれもこんな有りがたい目に遭つてゐながら、其理由を知らないでゐる。：こゝいらへは妖精が出るのか知らん？：書のやうだが？ おゝ、けつこうな書だ！ どうか此書が、今のやくざな世の中やうに、只見たとこばかりの物でないやうに！ (書物に) 汝の實行が、どうか其豫約に相應したものであるやうに！ 廷臣どもの言行とはまるで異つたものであつてくれ。

書を開いて讀む。

「ある獅子の仔が、己れ自らは知らず、また求めずして、ある和き空氣を得て、之に擁抱かるゝ時來らば、また、ある立派なる香柏の木より切離されたる枝々が、多年間枯れ果てをりし後に、蘇り、再び舊の幹に附著し、

新たに成長する時來らば、其時にこそポストューマスもまた其不幸を斷滅すべく、ブリテインもまた好運に向ひ、平和と豊滿と並び到らん。」
こりや依然夢だ。でなきや無意味な狂氣文句だ。其二つ兼帶歎、でなきや、何でもないので。まるで意味のない妄言なのか？ 或は理窟ちや釋けない謎なのか？ 何にしる、理由の解らんとこがおれの身の上に似てゐる。同氣相求めるといふ點で、まア、保存しとかう。

牢役人ら出る。

牢一 さ、さ、死ぬ御準備が出来てますか？

ホス あゝ、ちつと炙り過ぎたくらゐだ。疾うに出来てるよ。

牢一 ねえ、垂下るんですぜ。その御準備も出来てりや、お料理済みですがね。

ホス あア、幸ひに見物人の口に適やア、代錢相當の御饗應だともいへるんだが。

牢一 とんだえらい御散財ですなえ。其代り、もう御安心でさ、二度と支拂ひを

請求されたり、酒場の書出しを怖んなすつたりするにやア及びませんからね。酒場へ入る時は愉快だが、出る時は、とかく情けなくなりませすからね。そら、腹べこでやつていらしつて、へられけになつてお歸りてんでせう。で、使ひ過ぎたのを後悔したり、疲れ過ぎたのを後悔したりね。財布も空になりや、頭も空になる。財布は重い物を抜かれた爲に軽くなるし、頭はあんまり浮かれた爲に重くなつて沈む。とにかく、さういふ矛盾がこれからはなくなりませ。あゝ、たかゞ、二三錢の首縊繩にも偉い功德がある！ 何千兩だらうが、一瞬間に決算しつちまふ。あれが眞實の貸借帳なんだ。過去、現在、未來の支拂ひでせ。あなたの其頭一つが筆の、帳面の、數取の役を勤めて、それで以て總勘定が済むんです。おれは、お前が喜んで生きてる以上に、喜んで死ぬんだ。なるほど、眠ッちまへば齒痛なんか感じませんからねえ。けれどもあなた

ボス

宰一

のおつしやる眠方をする人と其眠方をさせる絞罪係りとちやア、後の方が優しのやうですなえ。なぜとおつしやい、一體、死んでからどつちへ往くか解りやアしますまい。わかつてるさ。

ボス

宰一

ちやア、あなたの「死神」には眼玉があるんだね、そんな風に描いた死神の像は曾ぞ見たことがないが。とにかく、解つた振をしてる者に案内させるか、解つた積りで出掛けるか、冒險的に後世の御審判をやつを受けるかでせう。つまり、とゞの詰りがどうならうと、其長旅から戻つて来て、話しをなさるてことは決してないでせう。

ボス

いゝや、わたしが行く道を案内する目は皆が有つてゐる。が、わざと目を閉いで使はないだ。

宰一

そいつア人を馬鹿にした話だ、お先眞ッ昏の道が一等よく見えるツての

は！ 首を絞られりやア、だれだつて目を閉がないわけにやアいかない。
使者役出る。

使

手枷や足枷をはづして其囚人を王の御前へ連れて來なさい。

ホス

ありがたい知らせだ。いよく解放される時が來た。

牢

(解放の意味を普通の意味に解して)すると、おれが絞罪にされるかも知れん。

ホス

さうすりや、今よりも自由になれるよ、死人には何等の束縛もないから。

牢役人の一の外皆入る。

牢一

絞罪臺と夫婦になつて幼の絞罪臺でも生ませる積りなら知らんこと、あんな覺悟のいゝ男は見たことがない。でも、ほんのこつたが、生きてゐたが酷い奴もあるて、大悪黨の癖に。それから、悪黨の中にも、其實生きてゐたいのだが、自殺する奴もある。おれもさうするだらう、其一人になりや。あゝ、みんなの心が一つで、而もそれが善良であつたらなア！ さう

だと、獄吏だの、絞罪臺だのはお廢止になつちまふだらうに！ かういつちや、自分の今の役徳を呪つてるやうだが、さうなりやまた、別のいゝ役が附くだらう。

入る。

第五場 シムペリンの陣營

シムペリン、ペラリヤス、ギテリヤス、アーギレীগス、ビザニオ、貴族ら、役人ら及び従者ら出る。

シム

神々の意志によつて、わが王座を救つてくれたお前たちよ、わしの側へ來て立て。最も残念なのは、あの立派な勳功を立てた貧しい兵士……身には襤褸を着てゐたが、輝く武装者をも恥ぢ入らせ、素肌の胸で鐵の楯を持

つた者よりも前へ進んだあの兵士……の行き方の知れんことだ。あれを
捜し出してくる者は幸福であらうぞ、若し恩賞を得るのが其者の幸福であ
るなら。

ペラ あんな見すばらしい男があんな勇ましい働きをしたのを手前は曾ぞ見た
ことがありません。乞食としか思へない装をしてゐながら、あんな立派
な手柄を。

シム (ピザニオに) 何等の手が、りもないか?

ピザ 死人をも生存者をも調べて見ましたが、更にわかりません。

シム 遺憾ながら、彼れに與へる筈の恩賞が空しくわしの手に残つてゐる。(ペラ
リヤス、ギテリヤス、アーヴェレーガスに) これをもお前たちの分に増加しますぞ。お
前たちは此ブリテインの肝臓でもあり、心臓でもあり、脳髓でもある。お
前たちのお底で此國が生きたのだ。ところで、今こそ聞くが、一體、お前

ペラ たちはどこから来たのだ? それを知らせなさい。

シム へい、わたくしどもはカムブリヤで生れまして、紳士でございます。それ
以上を自慢らしく申し上げるのは嘘でもあり、失禮でもあります。が、只
一つ申し添へりや、正直者だてことで。

シム さ、そこへ膝まづいて……起て、本日の戦功によつて勳爵士に叙し、予が
自近に召仕ふ者となし、身分相當の官職を授ける……

侍醫 コオネリヤスと宮女らが事ありげに出る。

コオ 何か事ありげな顔色をしてゐる……(侍醫らに) なぜそんな愁ひ顔をして此
大勝利の席へ参つた? お前たちはまるで羅馬人のやうだ、ブリテインの
王宮に屬する者のやうでない。

コオ 大王殿下! お喜びの折柄ながら、凶報を申しあげます。お妃はおな
くなりになりました。

シム 醫者の口からでは殊に不似合な報道だ！ だが、要するに、醫業は只一時、命を延ばすだけのもので、醫者みづからも死は免れないのだ。…妃はどうして果てた？

コオ おそろしく御憤悶の上で、御狂亂の體でお果てになりました。御存生中に他に對して残酷であらせられた通り、御臨終には、御自身に對して残酷な御處置をなされました。御意次第で、御自白になりましたことを申しあげませう。申しちがへがあれば、此侍女たちが正します。彼等は、御最期の際に、泣きながらお傍にゐたのでございます。

シム 話してくれ。

コオ まづ、お妃には、決して御前を愛してはゐなかつた、只御前の有せらるゝ顯榮なる地位に憧れて、御前にはなく、御前の王權に、御前のお位に嫁いたのである、御前御自身は大嫌ひだと御自白になりました。

シム (歎息して) 彼女以外にはそれを知つてゐた者はなかつた。最期に言つたのでなかつたら、それを口づからいふのを聞いても、わしは信じかねたであらう。…それから。

コオ お姫さまを、妃はいかにも眞實に愛しておいでなのやうにお見せかけになりながら、其實は蛇蝎のやうに、お顔を御覽になるのをもお厭ひになり、毒殺しようとなされましたところ、お姫さまがお脱出しになりましたので、果さなかつたと仰せられました。

シム (驚歎して) お、巧妙を極めた女悪魔め！ あ、女の心は解らんものだ！ まだ他にあるか？

コオ まだもつとわるいことがございます。御前のためにも毒藥を準備したと御自白になりました。それをめしあがれば、忽ちお體に障りますが、一インチづゝといふ風に、漸次の衰弱によつてお命を取るに到る其間、妃は夜

明しをなされ、泣き通し、附きつきりて御看護を遊ばして、絶えず接吻をなされ、飽迄も御前を騙し、機會の熟するを待つて、巧みに御前を説き、御子息を王位の繼承者になさうといふ御魂膽でありましたさうです。ところが、その御子息が不思議にも行くへが知れなくなりましたので、もうお恥もおかまひない程に御絶望になつて、天をも人間をも度外視して、一切のお企を御自白になつたのです。折角孵化りかけた禍ひが物にならなかつたのは残念だとおつしやつて、大憤悶の體でおなくなりになりました。侍女ども、そちちちもさういふ事をすべて聞いたか？

シム 宮女

はい、承はりましたでございます。

シム

此目が誤つてゐたのぢやアない。彼女は美しかつたには相違ない。あれの追従を聞いた此耳も、見た目通りと思つてゐた此心をも咎められない。彼女を疑ふのは罪惡とも考へられたんだ。だが、おゝ愛女よ！ お前は、

それはわしが愚かだからといふだらう、さうしてお前の經驗によつてそれを證明するでもあらう。 あゝ、天よ、すべてを御匡正下さい！……

ルーシヤス、ヤキモー、占ひ者及び他の羅馬の捕虜ら鎖にて繋ぐれ、警護されて出る。ホスチエーマスは一等おくれて出る。イモーゼンも他の側から、おくれて出る。

(ルーシヤスを見て) ケイヤスよ、もう君も、貢物の督促係りとしては來てゐない。貢物一件はブリテイン人が根こそぎにしてしまつた。もつとも、それが爲には幾多の勇士らを亡つた。随つて、其近親どもが彼等の捕虜即ち君たちを斬つて、死者の靈を慰めたいと願ひいでたによつて、それを差許すことにした。さういふ境遇だといふことを承知なさい。

ルー

勝敗は運だとお考へなざるが、圖らずも偶然があなたに幸ひしたのだが、若しそれがわれ〜に幸ひしたのであつたなら、血が冷却した時に

於てまで、劍で捕虜を威すやうな卑怯はせなかつたでせう。併し、生命以外の賠償が許されないのは、蓋し神々の御意であらうから、敢て辭しませぬ。羅馬人は羅馬人の勇氣を以て死を甘受するといへば、足るのです。

オーガスタス帝が健在である以上、きつと思慮さるゝ所がありません。自分に関していふことはこれだけ。…只一つお願いがあります。ブリテイン人と生れた自分の傍小姓、彼れだけは身受けを許されたい。主に仕へて彼れほど深切な、忠直な、勤勉な、其都度、其場合に物やさしい眞實な、機敏な、看護婦然たる小姓は曾てなかつたのです。この、彼れ的美徳を加算してお願いする以上、よもや否とはおつしやるまい。彼れは、羅馬人に仕へたとはいへ、ブリテイン人に對して何等の害をもせなかつたのです。どうか彼れを御助命下さい。他の者の血は決して假借せらるゝに及ばん。(イモーゼンを見て) たしかに見た顔だ。見覚えがある。…少年、汝は一目見

シム

て氣に入つた。可愛がつてやる。何故とも、何のためとも解らんが、助命するぞ」といひたい。舊主人に禮をいふには及ばんぞ。一命は助けてやる。何なりとも恩惠をおれに求め、汝の境遇に、また、おれの寛大に相當したるものなら、くれてやる、たとへ汝が捕虜の中の最も身分の高い者を請求したとしても。

イモ

この時、イモーゼンはヤキモトに目を附ける。

ルー

(イモーゼンに) 少年よ、おれは汝におれの命乞をしてくれなぞとはいはない、けれども汝は、多分、それをいひだすにちがひない。

イモ

いゝえ〜。濟みませんが、外にせねばならんことがあるのです。今、目の前に、わたしに取つては、死よりも怖ろしい物があるのです。御主人さま、あなたのお命は、何とか他の方法でお助かりなすつて下さい。

ルー (慨然として) 小僧め、もうおれを侮りさげすんで、見棄てやがるのだ。少女

や少年の眞實なんかは、決して頼みになるものぢやアない！……

此間イモーセンはヤキモーに目を附けて、尙さすがに疑ひ惑つてゐる。

あいつ、何をまご／＼してゐるのか？

シム (イモーセンに) ーこら、何が欲しいのだ？ だん／＼汝が可愛くなる。だんだ

ん考へて、一等いゝ物を請求しな。頻に見てゐるが、あの男を知つてゐる

のか？ あの男を助けたいのか？ 汝の親類か？ 友人か？

イモ あの男は羅馬人です。親類ではありません、わたくしが御前の親類でも何

でもありませんやうに。此國で御家來に生まれましたから、幾らか御縁は

ありますけれど。

シム なぜあの男をそんなに見詰めるのだ？

イモ 其仔細は、若しお聞き下さいますなら、内密で申しあげます。

シム おゝ、聽いてやらうとも。とつくりと聽いてやる。……汝の名は何とい

ふり？

イモ フィデールです。

シム 氣に入つたやつだ。小姓にして使つてやる。一しよに歩け。遠慮なく

話せ。

シムペリンはイモーセンと何か小聲で話しながら、奥のはうへ歩いて行く。

この以前からペラリヤスらは、イモーセンに目を附けて不審さうに顔を見合せてゐたが、まだ眞偽をたしかめられてゐる。

ペラ あの少年が生き返つたのぢやないかな？

アー フィデールといつてたあの美しい薔薇色の若衆をつくりだ、砂利が砂利に

似てる以上だ。兄さん、どう思ふ？

ギデ まるであれが生きてるやうだ。

ペラ しッ、しッ！ ま、見てゐなよ。こちとらに些とも目を附けないぢやない

か？ まア〜。よく似た人間があるもんだ。彼れなら、こちとらに物

をいひかけない筈はない。

ギデ たしかに死んだのを見たんだからなア。

ペラ 黙つて。ま、様子を見てゐよう。

ビザニオは、これより先き、只一目見てイモーセンであることを
認めてゐたらしかつたが、此時シムベリンと話しつゝあるイモ
ーセンを見やりつゝ、

ビザ (傍)ありや奥さんだ。奥さんが生きておいでなさるからにやア、善惡ともに、成行きに任せておかう。

このうちに王とイモーセンとは話しつゝ、又前の方へ戻つて
くスク

シム (イモーセンに)さア、わしの傍に立つて、望みの事をいふが、(ヤキモーに)

こら、前へ出な。此少年の問ひに對して、包ます正直に返答をしろ。でな

いと、國王たるの権力と其榮譽たる威徳によつて、厳しく拷問しても、眞偽

を明かにせねばおかんぞ。……(イモーセンに)さ、問ひを掛けて見な。

イモ (王に)お願ひは、あの方が、あの指輪をだれから得られましたか、知りた

のでございます。

ホス (イモーセンとは夢にも心附かぬらしく、傍白) あの指輪がああ少年にどういふ關係

があるのか？

シム (ヤキモーに)その指にはめてゐるダイヤモンドを、其方はどうして手に入れ

たり？

ヤキ その事を申さんでおくのが、それが手前に取つては拷問です。が、申したらあなたが拷問にお掛かりでせう。

シム え！ おれが？

ヤキ 隠してゐると苦痛でたまらんことを、言へと強ひられるのは有りがたい。

此指輪は奸計をして手に入れたのです。これは、もと、あなたが追放なすつたりオネータスの寶石でした。かういつたら、わたし同様あなたの胸にも徹へるだらうが、彼れは又と天地の間に生存してゐなかつた程の立派な人物でした。もつと申しませうか？

シム これに關聯した事は、残らず。

ヤキ あの無類の令女御……あの方を憶ひ出すと、此心臓から血が滴れて、不誠實な此心も縮み上る。……御免なさい。あゝ、息が詰りさうになる。

ヤキ モー胸をおさへ、頭を抱へて苦み、暫くは物をいひ得ない。

シム

え、わしが女！ 彼女がどうしたと？……こら、しつかりせい。其仔細を聞く前に其方を死なせるよりは、壽命のある限り生かしておきたい。……こら、努力して、その後を話せ。

ヤキ

ある時の事でした……あの時間を知らせた時計が怨めしい！……處は羅馬でした、……呪はしいあの邸で！……宴會の最中に……おゝ、あの食ひ物に毒が混せてあつたらよかつた、少くともおれが口へ持つてつただけでもさうだとよかつたに！……あの善良なボスチューマスが……あゝ、何といつたらいゝか？ あの男は悪人どもの中へ入るにやア善良過ぎてる。善良な、えりぬきの人達の中に入つたつて、一等善良な男なのだ。その男がじつと眞面目に、沈黙して、われゝ伊太利人が其めいゝの情婦を讚め立てるのを聴いてるうちに……其讚め方でものが御大層で、其美を稱めては、どんな大虚喝を吹く者をも吹き飛ばすほどであり、其姿を稱めては、

ギーナスの像やすらりと立つたミナーヅなぞの、あの、短命な人間以上の
姿態をも不具物だと思はせるほどだといひ、また其性癖を稱めては、男が
女に愛好する限りのあらゆる資質の倉庫だといひ、更に又嫁入の鈎たる
美貌といふ點に關しては……

シム

火に乗ツかつてるやうだ！……さ、早く要點を。

ヤキ

一刻も早く苦みたいといふ御希望なら知らんこと、お急ぎなさらずともで
す。……そのポストューマスが、さすがに王女を情人に有つ程の高尙な戀人
らしく、口を挿み、敢てわれ〜が讚めちぎつたのを非難しようともしな
いで、美德其者のやうな平靜な口吻で、自分の妻女の像畫を、それに其精神
までも添へて、能辯に、目に見るやうに話しましたので、われ〜の自慢し
た女どもは、まるで臺所で働く少女のやうになつてしまひ、今まで口巧者
にしやべつてゐたわれ〜が、まるで無口の低能兒のやうに思はれまし
た。

シム

(焦れ込んで)こら、要點を〜。

ヤキ

そこで、令嬢御の貞操を……これからです。彼れは、月神にも邪淫の念は
ある、ひとり令嬢御のみが清淨だと讚めました。で、手前が、持前の皮肉な
根性から、わざとそれを冷加して、若し接近する機會さへありや、見事に其
妻女をでも手に入れて見せると賭をしました。すなはち、手前からは金貨
を、先方は其指にはめてゐた此指輪をといふ段取となつたところ、眞の武
士の本性から、飽迄も妻女を信じて……信ずるのも無理はないと、手前も
後には悟りましたが……此指輪を賭けました。いや、假令これが太陽神
の車輪の紅玉であつたにしろ、いや、あの御車全體に匹敵するほどの寶
物であつたにしろ、彼れは安心して賭けたであります。で、手前は、
其目的で、急いで此國へやつて來ました。其際お目にかゝつたのを、多分、

御記憶でございませう。手前は宮中で令嬢御の貞潔に教へられて、はじめて邪淫と戀愛との差別を知りました。で、望みは絶えたものゝ、まだ慾が残つてゐるので、手前の機敏な伊太利頭がブリテイン人の鈍重を奇貨として悪計をたくらみました。つまり、手前の計略が圖に當り、あの君子人のリオネータスをして其妻の貞操を疑はしめるに足るだけの有理らしい證據を何くれと持つて歸つたのでした。室内の壁代の圖柄だの、妻女の此腕飾りだの……おゝ、うまく之を抜き取つたのでした！……のみならず、肉體に附いてゐる、人の知らぬ或目章をも。ですから、彼れは妻女の貞操の證券が全く破棄されたものと思つたのです、現に其沒收品を手前が所持してゐたのですから。そこで以て……（ふとボスチューマスと顔を合せて、驚いて）や！ どうやらこゝに彼れが……

ボス

（進みいで）うん、いかにもおれだ。伊太利の大惡魔め！ あゝ、おれのや

うな輕忽な、大馬鹿者、人殺し、どろぼう、過去、現在、未來の有りとあらゆる大惡人以上の者があらうか？ おゝ、おれに首縊り繩をくれ。でなきや、短刀を、毒藥を！ あゝ、王よ、巧妙な苛責係りを呼んで下さい。現世のあらゆる醜惡なものもわたしのに比べれば善く見えるに違ひない。わたしはあなたの息女を殺したボスチューマスです……といつては嘘だ、惡黨らしい嘘だ……實は、惡黨としてはわたしよりも小さい、小どろぼうにさういふ物體ないことをさせたのです。あゝ、彼女は美德の殿堂であつたのだ、いゝや、美德其者であつたのだ。さ、唾を吐きかけてくれ、石を投げてください。泥を浴せてくれ、野良犬を嗥けて吠えつかせてくれ。これからは、惡黨の名は、みんなボスチューマス・リオネータスと附けるが、いゝ、今までの悪い事は悉皆割引にするが、いゝ。おゝ、イモーゼンよ！ あゝ、おれの女王、おれの命、おれの妻！ おゝ、イモーゼン、イモーゼン、イモー

ゼン！

イモ (こらへかれて、走り寄つて) まア、あなた！ わが夫！ もしく。

ボス (怒つて突き飛ばして) 何をしやがる、こゝで茶番をしようといふのか？ この

小僧ツ子め！ ちや、斯ういふ役をしろ。

と手ひどく殴り倒し、尙も撲たうとする。ヒザニオが駈けて来てイモーゼンを庇ふ。

ビザ おゝ、皆さま、お助けなすつて！ こりやわたくしの、あなたがたのお姫さ

までです！……(尙撲たうとするボスチューマスに制めながら) おゝ、旦那さま、ボスチ

ーマスさま！ 奥さまはまだ生きておいで遊ばすのです。今はじめてお

殺しなされるのです。……(皆に向つて) 助けて下さい！……(イモーゼンを介

抱しつゝ) おゝ、お姫さま！ 奥さま！

シム (驚き呆れて) 此世界が廻るのか！

ボス (両手で頭を埋へて) どうしたのか？ 頭がぐらぐらする！

ビザ (イモーゼンを抱き起して) 奥さま！

シム 若しこれが事實なら、神々は極端の喜びを以ておれを驚かして殺さうとな

されるのであらう。

ビザ もし、奥さま、お気分はいかゞでございます？

イモ (ヒザニオを突きつけて) おゝ、さがれ！ イツちまへ！ おのしはわたしに毒

をくれた。おそろしい奴め、いつちまへ！ 貴人のゐるところへ来るこ

とはならん。

シム おゝ、ありやイモーゼンの聲だ！

ビザ 奥さま……おゝ、神々さま、わたくしの體へ雷斧をお落とし下さいまし、萬

一にもわたくしがあれを妙薬だと思はないで、奥さまにさしあげましたの

なら。あれはお妃さまから戴いたのでございます。

シム まださういふ事があるのか？

イモ だつてわたしあの毒に中つたもの。

コオネ お、神々！ お妃の御自白中の事で、もう一ヶ條申し残したことがございました。それを申し上げれば（とピザニオに）お前の正直なことが屹度わかるだらう。お妃は「若しピザニオが、わしが妙薬だといつて彼れにやつた粉薬を其主人のイモーゼンに服ませさへすれば、それはわしが鼠に鼠捕りを盛つたと同じ結果になる」と仰せられました。

シム え、コオネリヤス、そりやどうしたわけだ？

コオネ へい、お妃は幾度も手前に毒薬の調製を御懇望になりました。其御口實はいつも、犬猫のやうな取るに足らん動物を殺して見て、其模様を御承知になりたいたいふことに過ぎませんでした。が、手前は、どうもそれ以上の危険なお目的があるやに恐れまりましたところから、只一時生活力を麻痺させ

ますもの、程なく自然の諸職能を舊の通りに回復させまする或薬剤を特に調合してさしあげました。……（イモーゼンに）それをめしあがりましたのでせう？

イモ きつとさうでせう、一旦は死んだのでしたから。

ペラ （ギテリヤスとアーゼレーガスに）子供ら、それで間違ひが起つたんだ。

ギデ ちや、あれがいよくフィデルだ。

イモ （ボスチューマスに取纏つて）なぜあなたはあなたの正しい妻をお捨てになつたのです？ あなたは今、大きな巖の上においでになるのだと思しめして、さ、もう一度、わたしを投げ出して下さい。

ボス （抱きしめて）お、わがたましひよ、斯うしてこゝに木實のやうに絡みついておいで、此幹が枯れツちまふまで！

シム （イモーゼンに）おい、これ、わしの骨肉よ！ わしの子供よ！ え、お前はわ

しを、只もう、此劇の愚鈍な見物人扱ひにするのか？ なぜわしに物をいはんのだ？

イモ

(王の前にひざまづいて)お父さま、どうぞお祝福を！

ペラ

(ギテリヤスとアーギレーガスに)お前たちがあの少年を愛したのも無理はない。さうすべき謂はれがあつたのだ。

シム

(イモーゼンに祝福を與へつゝ)

わしの落す此涙がお前の身にとつての神水ともなれ！ イモーゼンよ、母の妃は亡くなつたぞ。

イモ

お氣の毒なことでございました。



シム

おゝ、彼女はわるいやつであつた。こんな不思議な再會をするといふのもみんな彼女のしたことであつた。只彼女の倅の行くへが分らん、どうしたか、どこへ行つたか？

ビザ

御前、もう大丈夫ですから、事實をお話し申し上げます。クローテンさまは、お姫さまがいらつしやらなくなりますと、拔劍を持つて手前のところへおいでになりました、口から泡を吹いて、怒鳴り立て、お行くへを白状せなけりや、すぐに殺すとおつしやいました。幸ひに主人の偽手紙を持つておましたのが役に立つて、クローテンさまは御憤激の餘り、主人の上著を無理やりに手前から取り上げて、淫な目的を抱いて、大急ぎでミルフオオド附近の山へ奥さまを捜しに出かけられました、是非奥さまを手籠にしてくれると怒鳴りながら。が、それからどうなされましたやら、それは手前は存じません。

ギデ 其話の結末は僕が附けよう。奴は僕が殺しツちまつた。

シム (驚いて制するやうに) こらく、とんでもないことをいふ！ 功勞のあるお前

に、わしの口から、苛酷な宣告を下すやうなことがあつてはならん。こら、勇敢な青年、今いつたことを早く取消せ。

ギデ 今いつた通りです。殺したんです。

シム 彼れは王子であつたのだ。

ギデ 禮儀も何も知らん奴でした。僕に對しての舉動なんか決して王子らしく

はなかつた。なぜなら、無禮千萬なことをいつたんです。若し奴が大きな海かなんかであつたつて、あんな風に怒鳴りやがりやア、逆も蹴返さずにやおかれなかつたんです。だから、首を斬つたんです。奴がこゝに突立つて、僕の代りに、此話をしなくツて幸福さ。

シム 氣の毒だが、自分の口で自分の宣告をしてゐる以上、お前は國法を受けん

イモ ければならんぞ。お前は死罪だぞ。

(過去を回想して) わたしはあの首のない死骸を夫のだとばかり思つてゐた。

シム (役人らに) 犯罪人を縛つて、目通りから引ツ立てろ。

護衛兵 ギテリヤスに立ちかゝる。

ペラ 王さま、まア、お待ち下さい。其男は其殺された男よりも遙かにすぐ

れた人間です。系圖をいやア、あなたにも劣りません。百人のクローテ
ンが手創を負つて輸ち得た以上の御褒美をあなたから戴いて當然の男で
す。(護衛兵に) 其手をおはなし下さい。それは束縛を受けるやうなお手ぢや
アない。

シム こら、老勇士、これから恩賞を貰はうといふ矢先だのに、なぜお前はおれに
逆つて、折角の功勞を無にするやうなことをするのだ？ 彼れの系圖がお
れに劣らんといふのは、どういふわけだ？

アー

(覺えず口を出して)それだけは父が言ひ過ぎたんです。

シム

それを罪として死刑に處するぞ。

ペラ

はい、三人とも死刑になりませう、若し此二人の系圖が今申した通りでありませんでしたら。　　おい、子供ら、今度はおれが危険な履歴話をせんけりやならん。もつとも、それはお前たちの幸福になる。

アー

お父さんに危険なことは僕らにだつて危険だ。

ギデ

さうして僕らに善いことなら、お父さんにも善いことだ。

ペラ

ちや、御免を蒙つて、いつてしまはう。王さま、あなたに、昔、ペラリヤスといふ御家來がございましたらう。

シム

(怒つて)あいつがどうだといふのだ？　あいつは追放した謀叛人だ。

ペラ

かやう申す老人が即ち彼れです。いかにも追放人です。が、どうして謀叛人であるやら、手前は心得ません。

シム

(激して役人らに)あいつを引ッ立てろ。全世界の力でも、あいつを救ふことは出来まいぞ。

ペラ

あんまりお逆上せなさるな。先づ、お子たちを養育した御報酬をいたゞきませう。もつとも、それを戴くや否や、すぐさまお取りあげになるがよろしい。

シム

なに、おれの子供を養育したり！

ペラ

あんまり武骨過ぎ、無作法過ぎました。はい、ひざまづきます。王の前に跪いて起ちあがります前に、倅共を推薦いたします、其上で此老爺を御存分になさいまし。御前さま、この二人のお方は、手前を父と呼んで、親子の積りでおいでやすが、全くはあなたの肉親の、あなたの御血脈の御實子がたです。

シム

えッ、どうして！　それがわしの肉親の！

ペラ

あなたがお父上の御實子であらせられると同じに、御實子です。手前は、
 ……此モオガンが……むかし御追放になつたペラリヤスです。あなたの
 一旦のお怒りが手前の濡衣とも、追放とも、謀叛ともなつたのでした。冤
 罪に苦みこそしたれ、悪事をした覚えはございません。此氣高い王子た
 ちを……全くさういふ御身分なのです……此二十年來手前の力で及ぶ限
 り何かと諸藝道を御訓練申しあげました。手前の教養は御前の御熟知の
 通りです。手前が追放になつた際にお子たちを盗み出したのは乳母のユ
 ーリファイルです。手前は其關係で彼女と夫婦になりました。忠勤を盡
 したにも拘らず、罰を下されたのが怨めしくて謀叛氣が起り、彼女に勧め
 てさせたことです。お子たちを盗んだためにあなたがお苦みになればな
 るほど、手前の目的には適つたからです。ですが、御前さま、もう其お子た
 ちをお返し申します。手前はこれで此世での最も大切な可愛い二人をな

くするのです。お、この大空の神々の惠福よ、願はくば滴露の如くにお
 二人の上に降りかゝれ！ 後にはお星さまともなつて天を象徴なさる程
 のお方達でございますから。

ペラリヤス泣きながら話したる。

シム

お前は泣いては話し、話しては泣く。が、お前たち三人が今度立てた偉勳
 のほうが、今の話よりも信ぜられないくらゐだ。わしは嘗て子供をなく
 した。若し此二人がそれであるなら、これ以上に立派な子供を得ようと
 は思ふまい。

ペラ

どうかもう暫くの間……此方を、この立派な王子さまを、ボリドローアとお
 呼びしてをりますが、實はお子さまのギデリヤスさままでございます。ま
 た此方はカドラルとは手前の附けました名で、弟御のアーギレーガスさま
 です。この方はお妃がお手細工の極めて珍しい外套にくるまつておいで

でした。證據に「見せろ」と仰せがあれば、すぐにさしだします。

シム ギデリヤスは頸筋に血光星めいた不思議な黒子があつた筈だ。

ペラ それがあの方です。今でも其天然の印章を有つておいでです。賢明な自然が、豫め斯ういふ證據にとて、御賦與しておいたのでございませう。

シム お、何といふ不思議なことだ、同時に三人の子供を得るとは！ どんな母もこれ以上の出産を喜んだことはあるまい。あ、わしはお前たちを祝福するぞ、一旦は其圓座から不思議な關係で飛び出したけれども、これから又めでたく照臨するやうにと！……お、イモーゼンよ、併しお前は、

これがために、王國を一つ貰ひそこなつたなう。

イモ

いゝえ、お父さま。わたしは、かうなつたゝめに、世界を二つ貰ひましたのよ。(走り寄つてギデリヤスを、アーギレーガスを抱擁して) お、やさしい兄さんたち、かうしていよく運びあつたのかねえ？ お、これから決してわた

しを嘘つきだとおいひでない。あなたゝちはわたしを兄弟だとおいひだつたけれど、實際はわたし女でしたの。わたしはあなたゝちを兄さん兄さんといつてましたらう。そら、それが事實でしたらう。

シム おや、前に逢つたことがあるのか？

アー はい、あります。

ギデ 逢つたばかりの時から非常に愛したのです。さうして死んだと思つた間際までも愛してゐました。

コオネ それはお妃の薬をお服みになつたからです。

シム お、不思議な本能作用！……いつまで聞いたら聞きつくされるか？ 此急激な概略話には一々枝葉が添ふであらうが、それがまたそれ〴〵に特色があるであらう。どこで、どうしてお前たちが暮らしてゐたか？ さうしていつお前が此捕虜の羅馬人(ルーシヤスを指して)に仕へるやうになつたか？

どうして兄弟たちに別れたのだ？ いつはじめて會つたのだ？ なぜ宮中を、どこへ往かうとして抜け出したのだ？ それらの事やお前たち三人が戦争に参加した理由、其他まだいろ／＼の事を訊ねたいのだ。さうしてすべて其他の附帯した出来事をも、それからそれへと。だが、今は、時間も、場所も、長々しく尋問するに適しない。……あれ、見い、ボスチューマスはイモーゼンを礎で留めたやうにしてゐる、さうして彼女は其嬉しさうな目を無害な電光のやうに、夫や兄弟やわしや其舊主人に投げかけて、めいめいの心を喜びで撃ちをる。めい／＼互ひに喜びを交換してゐる。……さ、さ、こゝを離れて、神殿へ往つて、犠牲を供へよう。(ペラリヤスに)これからはお前を同胞だと思ひますぞ、行末長く。

イモ (ペラリヤスに) わたしはまたお父さんだと思ひます、わたしの難儀を救つて、此有りがたい時節に逢はせて下さつたのだから。

シム みんなが大喜びだ、只あれにゐる捕虜の外は。あの手合をも喜ばすことにしよう、此幸福を分つて。

イモ (ルーシヤスに) 御主人さま、わたしはまだあなたに御奉公をする積りでをります。

ルー どうか幸福にお暮らしなさるやうに！

シム あゝ、あの行くへの知れん立派な働きをした勇士、あれが居合はせたなら、一國王の感謝を受くべき似合はしい此場の飾りであつたらうものを！

ボス 見すばらしい姿で、そこにをられる三人の衆と共に働いた兵士といふのはわたくしです。あれが其際のわたくしの目的には適當した服装でした。あれがわたくしであつたことは、ヤキモー、君からいへ。わたしは君を平伏させて、既に命を絶つところだつた。

ヤキ (腕いて) 改めて平伏します。あの時にやあなたの腕力で斯うさせられたの

だが、今は良心に責められて、斯うします。どうぞ此命を取つて下さい。もうたび／＼借りてゐるんだ。だが、先づ、此指輪を返します。それから、この、古今無類のお姫さんの胸飾りをも。

ホス

膝を突くにや及ばん。君に勝つ力があれば、その力でわたしは君を救ふ。また、君に怨みがあれば、わたしは其怨みを恩に易へる。生き存へてゐて、これからはもつと深切に人を扱ひたまへ。

シム

いや、立派な裁判だ！ わしも婿どの、寛仁大度を手本にしよう。……すべての者を救ふことにするぞ。

アー

(ホスチューマスに) あなたが助太刀をして下すつた時、兄弟にならうとしてる人かと思つたつけが、こりや嬉しいや、ほんとに兄弟だつたんだから。

ホス

どういたして、わたしはあなたがたの御家来です。……(ルーシヤスに) 羅馬の總督閣下、占ひ者をお呼び出さない。先夜、睡眠中に、ジュピター大神が



鷺に騎つて、手前の近親の者の亡霊と共に、枕元に出現されたやうに思ひました。で、目が覺めると、此胸の上に此書き物がありました。其内容は謎のやうで、何とも理解しがたいのです。占ひ者に其解釋をお命じ下さい。

ルー
フィラアモーナス！

占者
はい、ここにをります。

ルー
それを讀みあげて、説明をせい。

(書き物を受取つて讀む)「ある獅子の仔が、己れ自らは知らず、また求めずして、ある和き空氣を得て、之に搔抱かるゝ時來らば、又ある立派なる香柏の木より切離されたる枝々が、多年間枯れ果てをりし後に、蘇り、舊の幹に附着し、新に成長する時來らば、其時こそホスチューマスもまた其不幸を斷滅すべく、ブリテイーンもまた好運に向ふべく、平和と豊滿と並び到らん。」

リオネータスどの、お手前が獅子の仔である。お手前の字を正當に解釋すれば、リオは即ち獅子、ネータスは即ち出産、正に其通りの意味になります。(シムベリンに)「ある和なる空氣」とは令嬢御のことです。羅旬語では「溫柔氣體」と申します。而して「溫柔氣體」を「女性」とも名づけますが、その「女性」は(ホスチューマスを指して)あの御仁の貞操無二の奥方を指したものと占定いたします。(ホスチューマスに)あなたは、今現に、神託の文字通りに、御自分では御存じなく、またお求めもなさらないで、其やさしい和な空氣に搔抱かれておいでなさります。

シム

占者

「立派なる香柏」とは、シムベリン王、そのもと様を指すのです。「切離されたる枝々」とは二人の王子たちのことです。其お二人はベラリヤスに盗み去られて、多年間世に亡き人と思はれてをられたのが、今や蘇生されて、立

派な香柏の幹へ、舊の通りに附著し、而して其結果が此ブリテインの平和と豊満とを約束するのです。

シム

なるほど。では先づ、その平和の端を開かう。……ケイヤス・ルーシヤス、自分は勝利者ではあるが、シーザー並びに羅馬帝國に服従して、恒例通り貢を納めることにします、一旦異議を申したのは、あの邪曲な妃に勧められたためであつた。公明なる天は彼女及び其子に極めて嚴重なる御罰を下された。

占者

天にまします神々のお指先が此美妙なる一曲を奏せさせられるのです。此漸く濟んだばかりの戦争がまだ始まりませなんだ頃に、手前がルーシヤスどのお知らせした靈夢のお告げが、只今に及んで、悉く適中しました。何となれば、南から西へ空高く舞ひ昇つて次第に小さくなり、竟に日光の中に消え去つたと見ました羅馬の鷲は、明かにオーガスタス大帝が此西方

シム

に光り輝く太陽のシムベリン王と再び好誼を結ばせらるゝことを前表したものに相違ございません。

神々たちの徳を讚美しよう。めでたい供物壇から、神々たちの鼻を撲つまでに、高く〜煙を巻き昇らせよう。此平和を遍く民間に傳へい。さ、さ、出かけよう。羅馬、ブリテイン、兩國の旗を親好國らしく相交へて靡かせるがい。さうしてラッツタウンの大通りを通つて、大ジユピターの神殿で和信の條約を批准し、次に一切の終結として盛宴を開かう。……さア、さア！ 進發！ 未だ曾て戦争が、こんな血に染みた手を洗ひも終らぬうちに、平和に治まつたことはなかつた。

入る。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

シムベリン(完)

跋に代へて

此翻譯集は、豫定では、今から五年も前に譯了する筈であつたが、臨時に用が出来たり、健康が十分でなかつたり、止むを得ない行懸りや別のいろ／＼の仕事に手を出したりなどして餘暇を失つたので、大きにおくれた。

シェークスピアの傑作と見做すべきものは、この二十巻だけで盡きて居るのではない。嚴密にいふと、譯さないものゝうちに、既に譯したのよりも良い作がまだ三四篇はある。例へば、史劇では「ジョン王」や「リチャード二世」の如き、喜劇では「から騒ぎ」の如き、或は、傑作だとはいへないが、今尙をり／＼上演されて人口に膾炙されてゐる作としての

「ヘンリー八世」だの、「ウィンゾアの陽氣な妻女たち」だのは、當然わが國人間にも紹介されべきものであらう。尙また私としては、其外にある特種の理由があつて、「トロイラスとクレシダ」をも譯して見たいと思つてゐたし、又脚本ではないが、「シェイクスピア其人の研究上、どうしても逸してならないものとしての「ソネット詩集」をも、出来るなら、譯し添へたいものだ」と望んでゐた。

次に、われ／＼日本人の、殊に此二十世紀の特殊の立場からするシェイクスピアの研究は、從來の歐米人のしたそれらとは著しく異つたものでなければならぬといふのが私の所信であるところから、又、常にさういふ見地から彼れの諸作を研究して來てゐたのでもあり、二つには、廣く其趣旨をわが同胞にも諒解して貰ひたいものだと望んでもゐたのだから、主要な作の翻譯を了はると同時に、私自身の

シェイクスピア觀とでもいふべきものを、ざつと取纏めて見たいとも思つてゐた。わが國には、齋藤勇君の『シェイクスピア』以外には、シェイクスピア研究の入門書らしきものさへもないのだから。

ところが、とかくいろ／＼の臨時の仕事が續出する上に、是非ともことしは、かねて書きかけて中止しておいた『舞臺構造の進化上から觀た歌舞伎劇史』を卒業してしまひたいものと思つてゐるので、さういふわけにもいかない。で、二十冊だけで中止せねばならないが、それでは、どうもまだ不具な紹介の仕方だと思はれないのが残念である。

それから、もう一つ心残りの事がある。それは、譯筆の調子が——何分譯し始めと譯し終りとでは、其間に十五六年の變遷が挾つてゐるために——前後甚だ不揃ひであるといふ事である。此翻譯集の

第一巻の『ハムレット』を出版部から出したのは明治四十二年の五月であり、『ロミオとジュリエット』を出したのは同四十三年の九月、『オセロ』を出したのは同四十四年の四月であつた。其頃の私の譯文に對する考へは、今の考へとは大變にちがふ。此事については、既に一應『逍遙劇談』中に書いておいたが、此譯書を読まれる諸君の何等かの参考にならうと思ふから、左に其一部を抄出する。私がシェイクスピアに手を附けたのは、明治十五六年の學生時代に、『シーザー』を譯したのが最初だが、あれから今日までに、譯に對する私の態度は、少くとも五たび變遷してゐる。

「ジュリヤス・シーザー」を「該撒奇談」と標題して譯した時分は、私の向う見ず時代である。あれは、英詩のまだろく／＼讀みこなせない頭腦で、淨瑠璃まがひの七五調か何かで、だらしなく譯したのだから、つまり日本味あぢに引直した詳しい筋書のやうなものであつた。其次は、明治

廿八九年頃で、『早稲田文學』で「マクベス」を譯し始めた時がそれである。此時は註釋と首ッ引時代で、生なま中原作の情味や調子が分りかけて來たので、徹頭徹尾それに囚はれてしまつて、小心翼翼の體、おまけに國文學の復活時代であつたので、日本の文法にも囚はれ、知らず／＼雅文に偏したので、話彙がます／＼窮屈になり、不足がちで、筆が廻らず、で原文の情味の出ないは勿論、只の文章としても變妙來なものになつてしまつた。其次は實演を目的とした時代。これは彼の文藝協會の試演用の臺本にとて、『ハムレット』を一、二幕だけ譯して見た時で、明治四十一年二年頃である。原作が本もと來舞臺用にとて創作せられたものである以上、其あらゆる特長は、又其缺點らしき部分も、此目的に照準して始めて成程と會得せらるべき筈のものであることは、今更辯を要しないことである。私のシェイクスピア研究は、主として演劇改良の参考にしよう爲であつたのだが、こゝに至つて、さういふ自覺が強くなつたので、専ら實演といふ點に目安を置いて譯し始めた。處が、日本の舞臺で日本人に演ぜしめようと思ふ念が附いて廻るので、自然に國劇の連想が強く働き、譯語がつい歌舞伎風になり、默阿彌式

の七五調になつた。
 私が、國文の形式に囚はれて、「マクベス」を試譯してゐた時分に、或人が、故ハーン氏が「今日シェイクスピアを譯するなら、言文一致風に俗語で以て譯するがい」と言はれたからといつて、暗に文章語譯を止めると忠告してくれたが、その時には中々承服しかれたのみならず、其後「シェイクスピア傑作集」十卷の譯に取掛かる段となつても、(大分翻譯の苦心を改めたにも係らず)尙まだ文語脈を棄てられてゐた。それが即ち「ハムレット」や「ロミオとジュリエット」や「オセロ」を譯した頃である。假に之を文、語、口、語、錯、交、時、代、とても名づけておかう。つまり、原作が、韻文と散文、詩語と俗語の錯綜から出来てゐるから、此方法でなら、多分うまく原作の情味や調子が出されるであらうと思つたのであつた。

で、其當時、次の如き意見を發表した。

沙翁の作は、假に内容を離れて其形式にのみ就いて、言つても、其詩たる點即ち韻文と散文とを自由自在と錯綜させて、巧みに其場合其

人物に適應させてある所に價值がある。單に各種の性格を發揮し、景物や事件を叙述し、作者が言はんと欲する所を悉く言ひ盡してあると云ふ點にのみ價值があるのでなく、平常用ひらるゝ語の調子よりも遙かに調子を高くして、或は流暢に、或は富麗に、或は莊嚴に、或は豪宕に味じ出だしてある所にある。だから之を翻譯しようとする種々の困難を覚える。第一、同じく韻文と云つても、日本の七五調や五七調や八六調とは異つて、あちらには、平仄に相當するものがある。場合に依つては韻の踏んであることもある。そこに別の風味が籠る。よしやそれはかまはぬこととして、假に自由な文體で國文に翻譯を試みるとしよう。蓋し沙翁などのアイヤンピックは、英詩の格としては極ざらなもので、丁度我國の七五調まがひに相當するものであるから、近松以來曲亭あたりまで行はれ來つた雅俗折衷文に譯せば必ずしも當らぬことではない。もつとも、其七五調まがひと云ふは、決して馬琴風の、妙に型にはまつた機械的な七五調ではなく、不羈奔放な鹽梅が先づは近松の文體に近い。では、大體近松式で行くかといふと、忽ち困難を覚えることは、沙翁の語林は近松の語林よりは

遙かに廣く、其調子も品格も數段高いといふことである。こゝに於てか近松の文體だけを標準にして沙翁を譯することは出来にくい。故に更に色々別の要素を取入れねばならぬ。時としては歌舞伎からも用語を借用し、時としては物語文や謡曲や狂言や元祿以後文化文政あたりまでの小説類からも語の援兵を徵集せねばならぬ。御存知の如く、沙翁は半面は理想家で、半面は寫實家、五分はロマンチストで、五分はナチュラリストと云ふ作家だから、時に純然たる詩人と成つて甚だ調子の高い美文を咏じ出だすかと思へば、突知として寫實風にくだけて純乎たる生世話式の會話となる。此碎けた場合の味ひが、時としては能の狂言宛然のこともあれば、近松の世話物の趣に似ることもあり、南北や黙阿彌の世話さながらのこともある。一、九、三馬といふ味も混る。この變幻無窮の錯綜盤梅を譯することが最も難い。以上は單に文章の體式のみ就いていつたのである。然るに困難はこればかりには止まならない。作が何分にも三百何十年以前の英文學のクラシックであつて、本國の英吉利でさへ註釋書が無ければ學者にすら十分には讀み得られないと云ふ作であつて見

ると、風俗、人情を異にした我國文に譯すことは言ふ迄もなく難かるべきである。私は行き係り上で今度「ハムレット」を兎も角も譯したが（勿論力量が足りない爲ではあるが）どうしても満足する様には譯されない。意味だけを譯することは易いし、舞臺上の呼吸を譯すことも必ずしも難くはない。たゞ調子と云はうか、風味と云はうか、匂ひと云はうか、色と云はうか、一種名狀し難いものが如何にしても譯し難い。或は文章が延び過ぎてパラフレーズに成つたり、或は意譯に過ぎて日本料理の味に成つてしまつたり、簡潔が冗漫に成つたり、流暢が粗澁になつたり、含糊が淺露になつたり、儀式語が平常語に成つたり、急言が緩に成つたり、警句がその鋒銳を失つたり、滑稽の句が薩張可笑敷くない句になつたりする。そこで愛想をつかした結果、豫め十何ヶ條か内則を定めて、これに依つて一旦譯したのを更に修正しようとして試みたが、勿論思ふ通りには成らなかつた。併しその内則が、或は他の何等かの參考になるまいものでもないから、順序にかまはず擧げて見よう。

- 一 譯文の體は七五まがひよりも最も自由なる散文、常套的の歌舞伎口調よりも寧ろ能の狂言に近き口調を取るべきこと。
- 二 調和さへ十分ならば、語は時代には係はらず雅語、俗語、譯語、造語の嫌ひなく、新舊とも自由自在に交へ用ふべきこと。
- 三 原文の意味は勿論、出來るだけは其調子、其風味、其色、其句ひを譯すことに努む可きこと。
- 四 散文と韻文との錯綜鹽梅に注意し、之を譯するに當りては、口語體(世話)と文語體(時代)とを以て不即不離的に調子を取るべきこと。(但し原文の錯綜通りに拘泥して譯するには及ばざること。)

- 五 必要ならざる場合に「されど」故に「など」云ふ語を附け加ふまじき事、よしや簡に失するとも冗に失して餘韻を失ひ、解釋文の如くなすまじき事。
- 六 主句と従句との關係は成る可く元の儘の順序に従つて譯すべきこと。(語格の許す限りは元の儘に従ふが思想表白の順序なればなり。)
- 七 具體的の語は譯も成るべく具體的、ラテン傳來の語に(場合にも依れど)先づは漢語若しくは雅語に、地口、語呂、ユーヒューイズム euphuism、ユーヒュミズム euphemism 乃至スラング slang、ダイヤレクト dialect の如きも、これに相應すべき邦語にて譯すべきこと。
- 八 意味の曖昧なる句及び幾様にも解せらるゝ句は(現に

沙翁學者間にも異論ある句の如きは成るべくは、幾様にも解釋せらるゝ様に譯すべきこと。

九 格言、警句、諺の類ひは、特に形式を簡淨に譯し出すべきこと。

十 作者の創意に成る詞藻と當時の脚本に普通なりし常套的の文飾とを區別し、後者は時としては隨意に意譯し前者は及ぶ可くだけ原意を存すること。

十一 支那、日本の特別なる故事傳説を連想せしむる様な語は成るべく避くべきこと。「假令意味は適切に當るとも、成るべく元の儘に譯し出すべきこと、例へば「惡例を作る」と譯しても「俑を作る」と譯しても意味に於て違ひなければ、後者は連想上妙ならず。」

十二 敬語の使用法、内外相同じからざる點に注意し、或は語を省き、或は語を加ふべきこと。(同じく敬禮を行ふにしても、彼れは立禮、我れは坐禮、故に語尾などは成る可く簡にせざれば、舞臺上の約束に適はしむる能はず。)

かういふ意見を發表したのは、「ロミオとジュリエット」を譯しつゝあつた年(四十三年)の一月であつた。ところで其結果はといふと、なまなか工夫を凝らして古風な狂言詞などを適用したのが邪魔になつて和臭が強過ぎるとか、狂言臭いとか、歌舞伎臭いとかいはれた。語に附帶してゐる背景や連想が累を成したのであつた。そこで、無論自分自身でも満足してはゐなかつたのだから、「リヤ王」を譯する段となつては、すつと文語派を減すことにした。少くとも狂言や歌舞伎調子を減少することにしたと同時に、口語體をも現代のそれへ近づける

やうにして見た。「シーザー」の改譯(大正二年四月出版)も、ほぼ同じ手
心であつたが、「です」といふ現代語調さへ加へた點に於て、「リヤ王」よ
りも歩を進めてゐたといつてもよい。

以上諸篇は、いづれも文藝協會の試演用といふ副目的があつたの
で、舞臺的效果に必要な、原作の特殊の用意即ち辭の品位、語の繁簡、調
子の緩急等までも、及ぶ限りは移植しようといふ力めて見た。さうして
彌、「シーザー」を實演せしめるに及んで、「成程ハーン氏の言はれた通
りだな」と思ふ心が強くなつて、又少しく私の翻譯の手心が變つた。
それからを假に現代語本位時代とも呼ばう。「エニスの商人」、「ア
ントニーとクレオパトラ」、「テムベスト」、「眞夏の夜の夢」、「マクベス」の五
篇はすべて此同じ態度で譯したといつてよい。尤も、悲劇物となる
と、原作が折々際立つて調子高になり、派手になつてゐるので、據るな

く餘り際立たぬ程度に(即ち同じ語法で律し得られる範圍内で)文章
語を混用した事もあつたが、概して現に用ひられてゐる又は用ひ得
らるべき口語で譯した。さて、さうして見るに及んで、以前にも多少
は心附いてゐた事を、今更のやうに自覺した事の一は、成程、シェークス
ピアは不易の世界的詩人であるといふ事で、もう一つは、外國文學
の翻譯には、比較的現代語が最良であるといふ自覺である。文章語
や特殊の連想が伴ふ言葉で譯すればこそ分りにくゝもなり、古臭く
もなるが、現に用ふる言葉で譯して見ると、さうでない。あの複雑な
時としては怖しく簡約な、故事に絡んだ比喩澤山な、而も古い文法で
綴られてゐて、註釋なしでは逆も読みこなせないやうな名文句が、不
思議に活々と躍動して、其言葉の一々が、どうやら直ちに吾々の心の
琴線に觸れるやうに感ぜられる。しまひには、それを口にしてゐる

ポオシヤやクレオパトラやブロスベロやステファノやツリンキュロやポットムやマクベスやマクベス夫人やが、日本の大正の今日に、どこかそこいらにゐるのではないかと疑はれる程になつてくることがある。生中の粉黛を洗ひ落してしまつて、只情味だけを專一に、忠實に有りのまゝに寫して見ると、言々句々が、不思議に新らしくも近しくも感ぜられる。口語の含有してゐる自然味がシェイクスピアの作中に籠つてゐる不易の自然味を呼出すのであらう。

併し、現代語本位の譯といふことにも、少くともシェイクスピア翻譯の場合には、種々の手加減が要る。普通、今の小説に用ひられるやうな、山の手式の、不馴熟な、極めて語彙に乏しい現代語では妙でない。さうかといつて、純下町式の、やゝ輕佻な口吻に成り過ぎたり、「お」の字や「遊ばせ」の多過ぎる敬語澤山な上中流式になつても困る。つまり

江戸の背景が浮んでも困れば、明治大正の下町や山の手が浮上り過ぎて困るのである。で、現代語本位といつても、其實は種々の複雑な工夫と手心とが必要であることは論を俟たない。

要するに、私は、最初は全く亂暴な自由譯、中ごろは無理な道具を使つての逐語譯、後には、寧ろ情味本位、調子本位といふ點に目安を置いて、ほゞ一種新式の口語譯といふ立場に安住したのである。併しなから、ひたすら逐語譯風にするのを最も忠實な翻譯のやうに信じてゐた間は、随分長かつたが、氣が附いて見ると、假令一種新式の口語體で譯するにしてからが、國語も其語脈も丸で異なつてゐるのに、強ひて一語一句に泥むるのは無理でもあり、又無駄でもあると思はれた。とりわけ、原作が韻文であつて、踏韻や平仄の都合で、主として調の爲に、語が増減されてある場合の逐語譯は、自然冗漫になり易く、随つて

原意とは隔つたものになり易い。それも十分に洗鍊された抒情詩や敘事詩ならば格別、白廻しの死活を第一とする劇の長白の如きは是非とも臨機の譯出法に依らなければならぬ。次に移用語風の比喩(メタファ)などを一々拘泥して譯するのは何の役にも立たぬ。我國語に徴しても分る通り、或種類の比喩は月竝なので、又は比喩として、はなく、只の言葉として使つてあるので、あんまりそれに念を入れると、却つて全體の調子を損ずるに至ることがある。然るにそれに反して、其用語の特徴と其調子とで、直覺的に性格や氣分を暗示するのがシェイクスピア劇の特長である以上、譯するに最も注意を要するのは、辭の品位、其緩急、それから嚴肅と戲謔、無作法と鄭重、尊敬と侮蔑、激語と冷語、繁褥と簡略、婉曲と露骨、都會と地方等の寫し分けであるが、それらも私の所謂新式の口語體でならば、比較的に爲し易い。

それから又、シェイクスピアの作の定例として、人物が、不用意らしく、ひよい／＼と口にする言葉までが、大抵は格言式に簡潔に出來てゐる。或は諺をわざと少し語を換へて適用させてあることもある。又は同じ内容の事を、一方は抽象的に、一方は具體的に、又は幾たびも比喩を重疊して、言ひ現はしてあることもある。それらは、譯し方によつては、重複になつたり、冗漫になつたり、殆ど無意義同様になつたりする。これも、古今雅俗を流用し得る新式口語を以てすれば、割合に譯し易い。尙其他にもいろ／＼の事があるが、もう大分長くもなつたから、此の位にしておきませう。以上は、無論、比較的話である。これだけで完全な譯が出來るといふ譯ではない。

といふやうな變遷を経て、前後十五六年に互つて譯し了へた二十冊であるだけに、譯筆の調子が、少くとも其初期の四五冊と其以後の

とでは際立つてちがふ。就中「ハムレット」と「ロミオとジュリエット」と「オセロー」だけが目立つ。しかも此三作は最も廣く知られて、しばしば讀まれもし上演されもする作だけに、今となつては甚だ不便である。餘暇があれば、是非これらを現代語調に改譯したいと思ふのだが、今のところではさうもならない。坊間には是等の作の現代語譯と稱するものが出てゐるが、餘りに粗末なものだから。

最後に、特に斷つておくことがある。それは私の此譯は、普通謂ふ譯とは、暗に註釋の意味をも批判の意味をも含んでゐるといふ點でちがつてゐるといふことである。例へば、トガキの如きは原書に無いものが幾らも加へてある。歐米の沙翁學者らが非常に頭を悩ましてゐるやうな箇所をも大膽に斷定して譯し去つてゐることもある。が、誤解して下さるな、註釋的といつても、私は決して詞句を附け

加へはしない、處々は寧ろ原詞よりも簡潔に譯し得たと思ふ部分もある。一字一句でも、極めて止むを得ない場合の外は無駄なものは添へなかつた積りである。しかも尙常に註釋的といふ心持は持つてゐたのである。さうしてそれは、既に或一冊の緒言中にいつておいたことだが、私の勝手な臆斷でばかりしたことではない。いづれも相當の據りどころがあつての事である。トガキなどを或は咎め立てする人たちがありさうだから、これだけを斷つておく。

大正十二年五月十二日

譯者識

大正十二年六月一日印
大正十二年六月三日發
行 刷

(製複許不)

正價金貳圓五拾錢

譯者
發行者
印刷者

東京市牛込區余丁町百十四番地

坪内 雄藏

東京市牛込區辨天町百五十七番地

種村 宗八

東京市牛込區榎町七番地

渡邊 八太郎

發行所

東京市牛込區
早稻田

早稻田大學出版部
(振替口座東京一二二三番)

→[刷印社會式株刷印清日]



文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙 翁 傑 作 集 (第七編)

この作は沙翁の絶筆といはれてゐる。それに関しては卷末に譯者の多年の研究考察になつた一大論文を附録として添へてあるが、成程さうかも知れない。いかにも豊潤な、深刻な而も綽々たる餘裕のある夢幻的な高雅な喜劇である。前六種の作とは全く趣味情調を殊にしたロマンチックな喜劇で、妖精が出る、半人半獣の怪物が活動する、神仙のやうな人物、男を生れてからまだ二人とては見てゐなかつた處女がはじめて戀を知るなど、感興盡くる所がない。

テロペスト

(六版) 寫眞版口繪入 木版密畫多數入 定價 圓五十錢 郵税 十二錢

沙 翁 傑 作 集 (第八編)

沙翁の偉大なのは其作の彌、出てて彌、傑特な點にある。作意の變化して窮らない所にある。此作は其作才の爛熟期の最後の傑作で、巧みに世界的悲劇の契機を捉へて、全世界に君たらんか、熾烈なる肉體的戀愛を全うせんかといふ大アレンマに達著した英雄的放蕩兒が功名の末路を活寫したもので、所謂四大悲劇以外に一新機軸を出だし、諸評家をして沙翁作中の最大驚異と推賞せしめた。殊に、妖女王の性格の描寫は眞に驚異中の驚異で、古今空絶である。其間に丸て漢楚軍談でも讀むやうな男性的、政治的な興味が漲る。

アントニオとダレオパトラ

(六版) 三色版口繪入 木版密畫多數入 定價 圓五十錢 郵税 十二錢

發 行 所 早 稻 田 大 學 出 版 部 早 稻 田 牛 京 東

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙 翁 傑 作 集 (第九編)

大沙翁の多方面な天才の空想的側面の代表作としては、此上もない醉乎として醉な作である。先づ「テムペスト」に似たものだといへるが、若い時分の作だけに更に愉快、更に奇抜、更に微妙、更に飄逸である。五幕十幾場、其三分の二は悉く夢であり、幻である。想も夢幻的であり、調も夢幻的である。いろ／＼な妖鬼が頻に跳梁して恣に人間を翻弄する。人妖が錯綜するが、それが極めて自然である。理窟を全脱して、而も條理が整然としてゐる。艶情があり、滑稽があり、葛藤があり、悲喜がある。忽ち喜劇、忽ち笑劇、忽ち歌劇、絶對無類の脚色。

眞夏の夜に夢

(五版) 三色版口繪入 木版密畫多數入 定價 圓五十錢 郵税 十二錢

沙 翁 傑 作 集 (第十編)

所謂四大悲劇の一つで、沙翁が技術の圓熟期の作である。ドストエフスキの「罪と罰」の結構を更に雄大にし、さうして劇化したやうな名篇である。或は「ハムレット」以上「オセロ」以上「リヤ王」以上と稱せられる。わが國へ來た此劇の活動寫眞ばかりでも三種以上あつた。譯者、其年順、書名、略誌を添へた。これは我國での沙翁研究の沿革を精査したもので、題譯者、俳優、劇場までも詳かにしてある。沙翁研究者の必讀を要する。口語體で譯されてあるだけに、所謂四大悲劇中では、これが一等讀み易いであらう。

マクベス

(八版) 三色版口繪入 木版密畫多數入 定價 圓五十錢 郵税 十二錢

發 行 所 早 稻 田 大 學 出 版 部 早 稻 田 牛 京 東

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙翁傑作集 (第十一編)

以尺報尺

(三版) 寫真版口繪入 木版電畫多入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

本篇は沙翁が作中で最も皮肉な喜劇と特稱せられるものである。沙翁にも得意時代、失意時代があつたのだが、これは其悲觀時代の一名作で、現實曝露的な所に一味ショウやブリューラの近代劇と相通する皮肉味がある。附録として、特に難句解が添へてある。印刷、口繪、挿畫、裝釘、其他一切前例の通り。此事は一々これからは断らないでもあらうが、同例だと信じて下さい。

沙翁傑作集 (第十二編)

冬より夜をふく

(四版) 三色版口繪入 木版電畫多入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

つい先年英國の劇作者、舞臺監督者のパーカーが最新式の上演をやつて大評判になつた沙翁の最晩年の最練熟した技巧に成つた作である。今尙舞臺上で必ず成功する不思議に歌舞伎劇式の世話と時代と喜劇的氣分との混淆した夢幻劇である。四大悲劇ぐらゐでは萬魂の沙翁は分らない。斯ういふ作を意味しないうちは沙翁を語る權利がない。わが國の默阿彌などの講釋種のお家騒動物に一寸似た筋立てであるが、其詩としての品位は比べ物にならない。

東 京 早 稲 田 所 行 發 早 稲 田 大 學 出 版 部

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙翁傑作集 (第十三編)

リチャード三世

(三版) 寫真版口繪入 木版電畫多入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

沙翁が習作時代の傑作で純粹の正史劇の標本で、わが國ではどんないふ活歴劇に相當するが、同じやうに正史本位で書いても我國の作者と大詩人とではおそろしく醜い惡魔的天才である。主人公はニイチエの大発見らしく唱へた例の逆道徳の骨子をもつて、既譯十二編とは全く撰を異にして此主人公の道破を熟讀せよ。

沙翁傑作集 (第十四編)

ヘンリー一世

(再版) 三色版口繪入 木版電畫多入 各册貳圓五十錢 郵稅十二錢

沙翁の史劇中の最傑作である。第一、第二と二部に跨つてゐる長篇で、英國の内亂を舞臺面にした勇壯激越な政治的悲劇と、自然の滑稽で人の願を極め織り交ぜてある。今尙躍り動くやうな市井風俗の喜劇と、無縫の天衣のやうに、此作の喜劇部面だけには全くの化物のやうな折つて、沙翁の易の妙味がある。賞めてゐる。殊にフォレストスタッフといふビールの種、其實あの性格は大分不自然な格描寫は古今獨歩である。フォレストスタッフは純然として沙翁の女性描寫として、優に他のすべてを凌駕してゐる。評者の多くはフォレストスタッフに至つては、男性描寫として、彼れの中に驚異だといふが、フォレストスタッフに至つては、男性描寫として、優に他のすべてを凌駕してゐる。

東 京 早 稲 田 所 行 發 早 稲 田 大 學 出 版 部

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙翁
傑作集
(第十六編)

お氣を召すま

三色版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

沙翁が幸福に暮らしてゐた得意時代の作であるので、彼れの喜劇中の最も陽氣な、最も愉快な作だと稱される。讀む者も自然と暢氣な晴々とした心持になる。牧歌的」と特稱される作である。田野山林の詩趣が横溢してゐる。或部分は品のよい喜劇とも見られる。舞臺が主として深林中なので、野外劇の脚本にもされる。清淨な、無邪氣な、可憐な、高雅な作意であるから、外國では女學校の餘興用に歡迎してゐる。既譯十五卷中のどの作とも違つてゐる處に此作の特色がある。

沙翁
傑作集
(第十七編)

ちやく馬劇さく

寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

沙翁立身前後に流行つた、フランス仕立の思ひ切つて變から式な喜劇の代表作である。其れ自ら一喜劇である開幕劇へ、本筋の喜劇を編み込んだ趣向が、先づ最も珍らしい。雷聲が雷娘を難なく征服する段取に至つては更にをかしい。不思議に今も尙歡迎される喜劇である。我國では其幾場かは醜案された。本譯には例へ挿繪以外に特に名優の寫眞數葉を挿入した。沙翁の喜劇中の最も分り易いから讀みたいと望む人は、先づこれからお讀みなさい。

發 行 所 早 稻 田 大 學 出 版 部 東 京 早 稻 田 牛 込

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙翁
傑作集
(第十八編)

十二夜

寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

既刊「お氣を召すま」の姉妹篇である。學生の同胞の女の方が故あつて男装してゐるのが間違ひの種になる作意である。此間違ひを骨子とした點だけは作者の習作期の或作に似てゐるが、劇詩としての價値は無論數等優つてゐて、沙翁が作中、喜劇としては最も純粹なものと稱せられ、今尙愛讀もされ、實演もされる。既刊のどの作とも異つた味だから、之を讀むと沙翁の創作力の彌、出てて彌、無盡蔵なことが分る。上品な滑稽、高雅な戯諧の上乗である。

沙翁
傑作集
(第十九編)

コリオリナス

寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

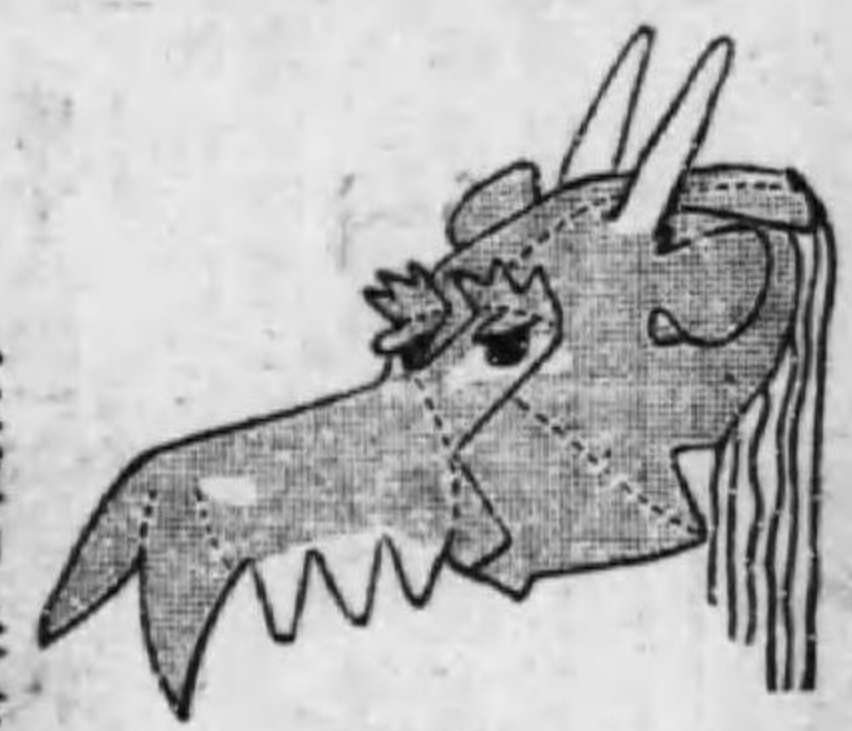
ニイチエの超人道德の標本のやうな傲岸不敵の一貴族を中心にして、其周圍に渦巻くアリストクラット對プロレタリアの黨争を経緯とした作である。専ら男性趣味と政治的感興で終始し、一の挿話をも一の戀愛情味を糺點しないで鋭く性格悲劇としての筋を一貫したのが沙翁集中の異例である。特權階級の専横、武斷政治の弊、平和と戦争の得失、所謂多頭の怪物たる群衆の蠢動、選舉期に於ける俗政治家の戸別訪問等、ところどころ現代に對する批判や諷刺が皮肉にも豫寫されてゐるのが面白い。

發 行 所 早 稻 田 大 學 出 版 部 東 京 早 稻 田 牛 込

坪内逍遙博士著 小川治平氏畫 穴戸左行氏案

家庭用兒童劇

第一集 第二集
各貳圓貳拾錢 各貳圓貳拾錢
郵稅各八錢



美麗を極めた装釘、色刷口繪、見返し繪、其他挿畫多數
此兒童劇は四五歳以上十三四歳までの子供達の爲に
博士が特に家庭用として其高遠な教育的見地から書
かれたものです、容易に子供達自身で演ぜられます、
殊に手軽に手製の出来る澤山の假面を利用して、紅
や白粉を塗らないで演ぜさせる趣向に至つては、古
今内外に前例のない斬新な考案です

(大坂中央公會堂、東京有樂座、帝國劇場及び全国各地小學校に於て演演)

附録 畫用紙で自製の出来る 假面の作り方 坪内博士指導 穴戸左行氏案

東 京 東 替 振 三 二 一 早 稻 田 大 學 出 版 部 發 行

坪内逍遙著

兒童教育と演劇

定價壹圓八拾錢 郵稅八錢

藝術教育は現代の一大 WATCHWORD です、併し其理論と其實
際とが兎角離れぬことになるので存外其効果が擧がらない、本書は其
弊を救ふために書かれた第一書です、主として婦人のために説かれ
たのだが、苟も家庭乃至初等教育に志ある人々の必讀書です、其要
目は(一)現世紀の三特徴(二)現代に於ける女性の任務(三)遊戯の藝
術化(四)兒童劇の進化(五)兒童劇の種類及び使命(六)兒童劇の效用
(七)兒童劇に對する種々の杞憂(八)兒童劇の扱ひ方(九)結論

東 京 東 替 振 三 二 一 早 稻 田 大 學 出 版 部

27294
4

文學博士 坪内逍遙氏著

戲曲
訂修
法

難

版九

定價二圓三十錢
郵稅八錢四六判
函入裝釘瀟洒

舞踊劇
長生新浦島

版再

定價二圓二十錢
郵稅八錢四六判
函入裝釘優雅

演劇研究
それからそれ

版四

定價一圓八十錢
郵稅八錢四六判
函入裝釘優美

藝術と家庭と社會

刊新

定價二圓
郵稅十錢
函入装釘新裝

東京橋町 實業之日本社 振替三 東六 京番

終

